317
58
317-58
1200501372642

圖書館書籍標準目錄

文部省編

昭和八年後期分

始

3
5

文部省編纂

圖書館書籍標準目錄

昭和八年後期分

文部省編纂

圖書館書籍標準目錄

昭和八年後期分

發行所寄贈本

317
58

例言

一、本目錄ハ昭和八年七月以降十二月末日迄ニ發行セラレシ新刊書中、普通圖書館ニ備付クベキ書籍二三一部二八二冊、價格約八〇〇圓ヲ採擇セルモノニシテ、圖書購入ノ參考ニ供スルモノナリ。

但、前號ニ漏レタルモノニシテ尙必要ト認メタルモノハ期間經過後ト雖モ採擇スルコトアルベシ。

一、書名ニ●印ヲ附シタルモノハ文部省ノ推薦ニ係ル圖書トス。

一、發行地東京ナルトキハ記載ヲ略セリ。

昭和九年十月

文部省社會教育局

圖書館書籍標準目錄

【目　次】

第一　一般書類……一
第二　神書、宗教……四
第三　哲學……六
第四　教育……九
第五　文學……一二
第六　語學……一九
第七　歷史……二〇
第八　傳記……二四
第九　地誌、紀行……二六
第十　政治……二八
第十一　法律……二九
第十二　財政、經濟……三〇

目次

第十三　社會……三二
第十四　統計……三三
第十五　數學……三四
第十六　理學……三四
第十七　醫學……三八
第十八　工學……三九
第十九　美術、諸藝……四一
第二十　兵事……四七
第二十一　產業、家政……四八
第二十二　少年書類……五三

圖書館書籍標準目錄

昭和八年後期分

第一　一般書類

汲古隨想　田中敬著　書物展望社　昭八、一〇　四六判四〇三頁　三、〇〇

主として書誌關係の舊稿を集められた隨筆集である。內容は「裝綴」と題して圖書の形態に關するもの、「書史」「紙・印・刻書」等と題して所謂書誌學に關するもの、「讀書」「隨想」等と題してその他の圖書に關する隨筆三十數篇が收められてゐる。

小精廬雜筆　市島春城著　昭八、一一　ブックドム社　四六判四八五頁　二、八〇

春城代醉錄　市島春城著　昭八、一二　中央公論社　四六判六〇〇頁　一、八〇

この二冊は何れも春城市島謙吉翁の隨筆集であるが、前者小精廬雜筆の方は全くの雜集で、折にふれ書き置かれたものを集めたもので、趣味談、社會評論、書誌談、人物論、紀行等內容は多岐に亘つて居る。後者代醉錄は書誌讀書に關するものが主で、之に群像片影として人物評論十七篇、鷄肋百談として雜筆約百篇が收められてある。

蒸發皿　吉村冬彥著　岩波書店　昭八、一二　四六判六二六頁　二、七〇

この著者の隨筆集は旣にこの目錄にもその幾つかが選ばれてあつて、隨筆家として獨自の態度を有つてゐる。本書の序には「泥溝の水を皿に一杯汲み取つてそれを蒸發させるとあとに僅かな殘滓がのこる。それを顯微鏡で覗いて見ると、色々なものゝ屑が現はれる。(中略) 自分が平生瑣末な物事に就いて隨筆を書いて居るのは丁度此の泥溝の水を蒸發皿で煮つめたその殘滓を虫眼鏡で覗いて、さうして見えたものに就いて傍にゐる親しい

友達に話してゐるのと何處かしら似たところのある仕事のやうに思はれる」と云つてこの書名のいわれを明かにし内容の一班を窺はしめてゐる。

新聞ニユースの研究　關一雄著　昭八、一〇　厚生閣　四六判二一八頁　一、六〇

著者は米國ノースウエスタン大學で新聞學を專攻して本書を著はされたので、ニユースを其の意義、要素、種類、構成等に分つて研究してある。卷末には海外主要新聞一覽、ジヤーナリズムに關する參考書の二つの附錄が附せられてある。

成簣堂閑記　徳齋富蘇峰著　池上幸二郎共編　昭八、一二　書物展望社　四六判四〇三頁　三、五〇

既に各方面に發表せられた著者の論文の中、主として典籍に關するものを集めて一本としたものである。「紙魚叢話」と題する十七篇は大部分書誌に關するものであり、「交友小錄」十七篇は主として明治大正の文友に對する回想記である。次の「草堂獨語」七篇は各方面に亘る漫筆で、最後の「好著品題」三十四篇は新刊圖書の紹介批評文を集めたものである。

世界大思想全集　第一期第七三、七四、七八、八三、八四、八五、八六卷　平凡社編　昭八、六—一二　同社　四六判　（並製）各一、〇〇

第七三　共同社會と利益社會（テンニイス著　鈴木晃譯）
第七八　宗教論　第七四　經濟學の領域及び方法（キインズ著　濱田恒一譯）
第八四　ルソオとロマンテイシズム（バビット著　葛川一馬、土戸久夫譯）　第八三　精神科學序說　下（ディルタイ著　鬼頭英一譯）
第八五　反マルクス論（カール・ムーア著　草間平作譯）　第八六　共同村の歴史　下（シヤール・ジイド著　八太舟三譯）

續福澤全集　第二、三、四、六卷　福澤諭吉著　昭八、七—一二　岩波書店　菊判各約七〇〇頁　各四、〇〇

第二卷「時事論集」（明治十八年至二十二年）　第三卷　同　（明治二十三年至二十六年）
第四卷　同　（明治二十七年至二十九年）　第六卷「書翰集」

大百科事典　第二〇—二五卷　平凡社編

第二〇卷（ニシヤーハシ）　昭八、六—一二　同社　四六倍判　（並製）各、三八〇
第二一卷（ハスーヒヤ）　第二二卷（ヒユーフレ）
第二三卷（フローホワ）　第二四卷（ホンームス）　第二五卷（ムセーヨシサ）

隨筆集　都會情景　戸川秋骨著　昭八、一二　第一書房　四六判三八九頁　一、五〇

父祖代々江戸に育つたと云ふ著者の隨筆集で「この一二ケ年來筆にしたところを纏めて顧ると、いづれにも都會の香が强烈に附着して居る。街路の香、文化式家屋の香、市人の香、流行の香、それ等が鼻を衝く。（中略）。さう感じたから、こゝに都會情景と命名してこれを世に送り出す次第である」と云ふ序文の言葉は本書の内容をも語るものである。文學に關するもの、趣味に關するもの、社會に關するものが多いが時事に關するものも含まれて居る。

中島廣足全集　第一、二篇　中島廣足著　横彌富破山　昭八、八　大岡山書店　菊判第一篇四〇五頁　第二篇五四七頁　各四、〇〇

中島廣足はその著書百四十餘部と稱せられ、その内容も頗る廣範圍に亘つてゐるが、この全集には紀行篇として二十二篇、文集篇として檀園文集及その拾遺、物語篇として「とりかひの翁物語」「水江物語」「うつせ貝」の三篇（以上第一篇）、隨筆篇として「かしのしづ枝」「かしのくち葉」「あまのくゞつ」「檀園隨筆」等、道義篇として六篇、考證篇として五篇（以上第二篇）等、主著がすべて收められてある。

日本發見　柳澤健著　昭八、八　日本評論社　四六判五三三頁　二、〇〇

外交官である著者の隨筆集で、全部で十八篇を收めてゐる。本書の書名である「日本發見」もその中の一篇で こゝには久し振りに歸朝した若者の祖國感が隨筆風に書き流されてある。その他「シヤルル・モーラスと現代」「東西文明の相剋」「呼び合ふ二つの文明」「ルネツサンス途上の日本」等々、社會文明に關するものが多い。

人・世間・自然　相馬御風著　昭八、一二　厚生閣　四六判三六四頁　一、九〇

文藝的な靜かな筆致で、人、世間、自然に對する著者の考察と感想とを書き流したものである。

紅葉山文庫と書物奉行

森　潤三郎　著　昭和　書房　菊　判八〇〇頁　四、五〇

徳川時代唯一の官設文庫である紅葉山文庫の沿革と、文庫の管理官である書物奉行の職責及代々の奉行の事蹟を研究調査したものである。内容は第一編紅葉山文庫、第二編書物奉行、第三編奉行傳記集成の三つより成り、特殊の研究である。

第二　神書、宗教

かむながらの神道の研究

田中義能　著　昭八、七　日本學術研究會　菊　判一九四頁　一、八〇

著者の本書著述の目的はかむながらの神道研究の普及徹底にある。從つて平易通俗を旨として、神道に關する根本概念を與ふることを以て主眼としてゐる。内容は「神道の發達と分化」と題して先づ神道の歴史並に現今の十二神道を概觀し、次いで「惟神の道」「神道と人生觀」「神道と世界觀」「皇祖と神道」「祖先と神道」「神道と國家」等の諸篇で神道精神の闡明に努めてゐる。

神ながらの道

今岡信一良　著譯　昭八、一二　富山房　四六判三五四頁　索引一七頁　一、八〇

著者はアメリカの新聞記者で、又日本神道の研究家として有名である。哲學上からはベルグソンの流を汲み、純粋精神を以て神道の根本原理と見なし、日本文化はこの神道精神の上に精神主義、審美主義、實用主義の三つが能く調和して創造的の發展をなしたものと見なすのがこの著者の主張で、今岡氏の譯亦極めて流暢で翻譯書の感じは誠にうすい。

●現代人の佛教概論

友松圓諦　著　昭八、一一　第一書房　菊　判二五四頁　一、八〇

「佛教を一括して知るために吾々は今、佛教の三位一體の範疇をとらうと考へる。それは佛教に於て「三寶」とよばるゝもので、佛陀と、その佛陀が說いた教、乃ち僧伽とである。」著者は本文の中に斯う云つて居る。從つて内容は佛陀、達磨、僧伽の三部に分たれてゐるが、著者は昔から云ひ古されてゐるこの佛法僧の三つの範疇を、實踐を旨とした活宗教として說いてゐる。

讃美歌物語　他一

別所梅之助（マクネヤ）　共著　昭八、七　警醒社　四六判四〇八頁　二、二〇

著者マクネヤ、別所兩氏は、共に明治三十六年に初めて我國の讃美歌が編纂出版された時の編纂委員の一人であつた。その後マクネヤ氏は、云はゞ讃美歌の解說ともなる可き讃美歌に關する種々の物語や挿話を蒐集して作詞者の信仰生活を中心に、作詞並に作曲の事情を世の人々に示さんとされたが、不幸にして完成の運びに至らずして同氏は逝去された。この志は別所氏に依つて承け繼がれ、大正五年「讃美歌物語」として出版せられた。本書は昭和六年に讃美歌が改訂せられたに鑑み、大正五年版の讃美歌物語を補訂したものである。卷末には讃美歌小史（別所梅之助著）が合綴せられてゐる。

宗教生活の原初形態（デュルケム）　下卷

エミール・デュルケム　著　古野・清人　譯　昭八、一一　刀江書院　菊　判七四四頁　附錄四〇頁　三、〇〇

本書は近世佛蘭西社會學者として有名なエミル・デュルケム（Emile Durkheim）の主著の一つである Les Formes élémentaires de la vie religieuse, 1912 の譯で、本書が宗教研究に及ぼした功績に關しては今更贊言を費すの要を認めない程である。この譯の上卷は昭和五年に出版せられ既に本目錄にも收錄されてあるが、今回發行の下卷には附錄として同じ著者に依る「宗教現象の定義について」（De la définition des phénomènes religieux, 1899）が加へられてある。之は原著者の宗教說の根本觀念を與ふるものとして重要視されてゐる。

聖書民俗考

別所梅之助　著　昭八、一一　警醒社　四六判四三六頁　二、〇〇

舊新約聖書に現はれて來るイスラエル人の俗習を宗教的に又民俗學的に解說したもので、時々各種の新聞或は雜誌に掲載せられたものを集めたものである。聖書を讀む時の參考書となるものである。

佛教大辭典　第三シーセ

望月信亨　編　昭八、一二　望月博士佛教大辭典發行所四六倍判一〇二九頁　一八、〇〇

佛書解說大辭典 第二—六卷　小野玄妙編　昭八、八—一一　大東出版社　四六倍判各約四〇〇頁各七、〇〇
第二卷 カーク　第三卷 ケーコ
第五卷 シ　第六卷 シーセ
第四卷 サーシ

文化史上より見たる弘法大師傳　豐山派弘法大師一千一百年御遠忌事務局編　昭八、八　同事務局　菊判一一二一頁　七、〇〇

弘法大師の傳記を、文藝史上、宗教史上、思想史上の三方面から考察編纂したもので、相當浩瀚なものであるが弘法大師一千一百年御遠忌の記念出版として二年間を要して上梓されたものである。編纂委員としては富田斐純、荒木良仙、田中海應、宮崎榮雅、川井精春、守山聖眞、內藤堯實、三浦章夫、秋山秀典の九氏が擧げられてゐる。

第三 哲學

勘の研究　黑田亮著　昭八、七　岩波書店　菊判二九〇頁　索引一七頁　二、二〇

往々「第六感」の語で呼ばれる所謂勘の心理學的の分析である。心理學としても相當專門的な研究で、興味深い事柄ではあるが、本書を讀みこなすには可也の程度の心理學上の豫備知識を必要とする。

經學史　大東文化學院研究所編　昭八、一〇　松雲堂　菊判二七六頁　一、八〇

本書は昭和七年の大東文化學院創立十周年講習會筆記四篇が加へられて上梓されたものである。內容左の如し。
先秦より南北朝に至る經學史（安井小太郎）
唐宋の經學史（諸橋轟夫）
元朝の經學史（小柳司氣太）
清の經學史（中山久四郎）
朱子の經學（安井小太郎）
王陽明より見たる朱子及び朱子學（山田準）
支那文學と朱文公（市村瓚次郎）

最近心理學概說 下卷　小野島右左雄著　昭八、一〇　中文館　菊判三七八頁　索引二八頁　三、五〇

本書は主として高等專門學校に於ける心理學科の參考書として著はされたもので、その上卷は昭和七年十月に發行されて居るが、この下卷では第二編各論の中、第五章感情情緒論、第六章意志動作論、第七章思考論、第八章個性及び性格論、第九章表現論及び第三篇結論が收められてある。記述は比較的平易である。

最新哲學概論　アロイス・ミューラー著　寺田一吉譯　昭八、一一　獨逸書房　菊判二六四頁　二、〇〇

一流の哲學者はすべて自分の立場を有つて居る。故に夫等の人々が哲學概論を書けば、自らその立場に偏して來るのは當然である。例へばヴインデルバントは西南獨逸派の哲學概論であり、フッサールやハイデッガーは現象學的哲學である。この間に在つて本書の著者は何れの學說にも多く偏せず比較的公平な立場から、最近の哲學說を取捨して一つの新らしい哲學概說を示してゐる。

人生を語る　下村虎六郎著　昭八、九　泰文館　四六判二四五頁　一、〇〇

青年と主人との對話の形式を以て、人生に最も本質的な問題である生命論を中心に、人生の理解に資せんとするものである。內容は「宇宙力を語る」「生命を語る」「人間性を語る」「人間苦を語る」「自我を語る」「人間感情を語る」「生活態度を語る」の七項に分たれ、記述は中學生程度の平易なものである。

西周哲學著作集　西周著　麻生義輯編　昭八、一一　岩波書店　菊判四〇五頁　四、〇〇

我が國西洋哲學研究の先馳者である男爵西周氏の著作集で、著述として出版されたものは甚だ鮮いが、明治初

年既にミルの「功利主義」を譯し、ジョセフ・ヘヴンの「心理哲學」を譯して西洋哲學を我國に紹介してゐる。本書に收められた論文は、既に著述として或は雜誌論文として發表せられたものもあるが、多くは未發表のもので、その數凡そ二十數篇に及んでゐる。

武士道の復活　平泉澄著　昭八、一二　至文堂　菊判三八七頁　二、八〇

前著「國史學の骨髓」に次ぐ論文集である。内容は「武士道の復活」「橋本景岳」「橋本左内先生とその周圍」「ドイツの歴史教育」「月沈原の思出」「革命とパーク」「神皇正統記の成立」「神皇正統記の内容」「サボナロラと日蓮」「皇室と國民道德」「維新の原理」の十一論文より成り、何れも日本精神を高揚するものである。

物心の研究　木村秀吉著　昭八、一〇　建設社　菊判五一八頁　三、五〇

著者の學的態度並に本書刊行の理由は、その序文の中に明瞭である。即ち「從來私の持續し來れる學的態度、即ち人間生活に於けるあらゆる事象に對して、その心的なるものは物的外存生活の解剖より、物的なるものは心的内存生活の反省よりこれが理解を全體的に果行し（中略）眞に物心一如の世界への展進を力し努め來れる一學究としての念望の先づ精神文化の世界にかけるこれが理論的具體化への試行を切實に痛感して」本書を公刊されたのである。内容は既に各方面に發表された十四の哲學論文を集めたもので、專門的で稍々難解である。

ブルノー・バウフ　哲學入門　新館正一・井國共譯　向井錞　昭八、一〇　高原書店　菊判二五〇頁　一、八〇

著者は獨逸現代の哲學者で、本書はイエナの國民高等學校に於ける講義を出版したもので、極く初歩の人々に向つて書かれた「哲學上のABC」である。說き方は極めて平明で解りよく、譯文亦流暢である。

ユーベルヱーク大哲學史　第一、九卷　桑木嚴翼・伊藤吉之助・出隆監修　昭八、一〇―一二　學藝社　菊判第一卷四二四頁　第九卷四六〇頁　各三、五〇

この哲學史は桑木伊藤兩教授、出助教授の監修譯で、第一卷は古代編上卷（山本光雄譯）で、ギリシヤ哲學の中キュレネ學派のエウエメロス迄である。第九卷は各國篇上卷（磯部忠正譯）で、フランス並にイギリス篇である。原著は最初獨逸ケーニヒスベルク大學のユーベルヱーク（F. Ueberweg）教授に依つて物されたものであるが、後同大學のライケ博士、ライプツイヒ大學のハインツェ教授その他により增補せられて今日に至つたもので、全五卷であるが、この譯書は之を十卷に分つてゐる。

論語

語私感　武者小路實篤著　昭八、一〇　岩波書店　四六判三七四頁　一、三〇

本書は論語の字句の上の解釋ではない。又その思想を解說しようとするものでもない。著者が論語を讀んで受けた感じ、又論語を通じて觸れ得た孔子の人格の解釋を著者一流の簡勁な筆で書き記したものである。尙論語の字句上の解釋はすべて簡野道明氏の解釋に從つた事が附記されてある。

第四　教育

教育學（續哲學叢書　第九編）　長田新著　昭八、七　岩波書店　四六判三五九頁　一、五〇

著者は廣島文理科大學教授で、本書は「一つには專門の一科としての教育學の門に入らうとする者の爲に、又一つには教育の實際に携はる者の爲に、教育學といふ一科學の基礎と教育活動と呼ばれるものゝ本質とを、專門の立場に立ちつゝ而も成るべく平明に敍した」著作である。内容は「教育學の方法」「教育活動の本質」「教育者と教育活動」「教育活動の方法」「兒童生命の理解」「民族と教育」等の諸章に分たれてゐる。

鄕土教育講演集　文部省普通學務局編　昭八、七　刀江書院　菊判三一七頁　一、五〇

昭和七年初めて文部省主催に依つて開かれた鄕土教育講話會並に講習會に於ける講演集で、内容は左の如く極めて多岐である。

鄕土教育の本義（武部欽一）―教育學上より觀たる鄕土教育（吉田熊次）―最近世教育改善の動機（大瀨甚太郎）―鄕土教育に對する所感（森岡常藏）―鄕土博物館（森金次郎）―地域研究の方法（小柴忠七郎）―地名の研究（柳田國男）氣候と地方生活（岡田武松）―土壤と地方生活（脇水鐵五郎）―植物の地方的分布（草野俊助）―林制と地方生活（遠藤

安太郎)—農業地域の人口狀態に就いて(高野豐文)—村落地域社會の研究(小田内通敏)—航空寫眞の撮影と利用に就いて(野田政逸)—我が國に於ける交通の發達(樋畑雪湖)—横濱市の中核としての吉田新田(石野　瑛)—都市の發達(今井登志喜)—都市計劃(飯沼一省)—神戸市の犯罪狀態(藤村成助)—明治維新後の經濟(土屋喬雄)—農村經濟史の概念と其研究方法(小野武夫)—都市農業と其立地學的展開(青鹿四郎)—部落を基準とせる地域的農業經營(高橋深藏)—村の出入に就いて(野中太氣彦)—我が村の鄕土教育(森繁光)—師範學校の鄕土研究施設(長谷川藤太郎)—師範學校の鄕土教育施設(矢崎好幸、笠井惠祐)

個性調査と職業指導の原理　田中寛一著　昭八、七　同文書院　菊判二七八頁　二、二〇

職業指導には二つの考へ方を豫想することが出來る。一つは學校に於てテストを行ひ適職に向はしむる仕事であり、一つは更に廣い意味での人生指導である。著者は本文の中に「職業指導の目的は兒童生徒をして將來社會に立つたとき、その個人をして適當な職業について自己の性能を十分に發揮する機會を得、それによつて社會國家の繁榮に貢獻すると同時に自己の生活を維持し充實することを得しめる樣に教育し援助するにある」と云ふて居る所を見れば明かに職業指導を後者の意に於て說かれてゐる。因に本書は昭和四年大阪府教育會に於ける講演筆記を書き改められたものである。

●子供の遊ばせ方　再版　坂内ミツ著　昭八、七　吉岡書房　四六判二一三頁　一、五〇

本書は初版を大正十三年に出版してゐるが、今回發行所を改めて再版せられたものである。すべてこの著者獨自の經驗と見解の下に、子供の生活の大部分である「遊ぶ」と云ふことに關して研究されたもので、團體遊戲個人遊戲、室内室外遊戲等々に關する實際の方法を敎ふると共に、子供と一緒に誠意を以て遊んでやると云ふ心組みを說くものである。

兒童期の體育　森秀著　昭八、七　目黑書店　四六判二八九頁　二、〇〇

著者は長年體育事業に從事され、本書は昨年歐米に巡遊し親しく彼地の體育指導の實際について視察せられてものされたものである。内容は兒童期體育の實際と云ふよりは、その基礎と見らる可き兒童期體育論で、この事業の實際的方面に從事する人々に體育合理化の理想を說くものである。

青年團の經營　農村の部　熊谷辰治郎著　昭八、七　日本青年館　四六判三一五頁　、五〇

本書は雜誌「青年」並に「日本青年新聞」その他二三の新聞雜誌に掲載されたものを集めて一本としたものである。從つて内容は必ずしも一貫した體系を有して居ないが、收められた一十篇並に附錄二篇は、何れも青年團の經營に對して指導を與ふるもので、書名に傍題して「農村の部」としてあるが「決して農村青年團の經營だけではなく、この本に說いてある可なり多くは、都市青年團の經營者にも共通する意見」であることが自序の中に云はれてゐる。

青年團物語　山本瀧之助著　昭八、一〇　山本高三　四六判一三八頁　、五〇

我國青年團の育ての親と稱せられる著者の自敍傳風の遺稿集で、先に出版せられた山本瀧之助全集の中にも收められてゐない。著者個人の身邊に關する記錄を集めたものであるが、同時に之が明治時代の青年團發達史となつてゐる。

圖書の受入から配列まで　林靖一著　昭八、九　大阪屋號書店　菊判三五四頁　三、二〇

本書は著者の前著「圖書の整理と利用法」(大正十四年刊)の書き改めとも、增訂改版とも云はれる。内容は主として著者の長年の經驗に基き圖書の整理方面のみを取り扱つて居る點で、或は前著の前半のみの改訂とも云へる。圖書を圖書館に受け入れる手順から始めて、之を書架に配列する迄の經路をあらゆる方面から考察して、極めて實際的に解說したものである。

日本教育文化史　高橋俊乘著　昭八、九　同文書院　菊判六二四頁　三、八〇

著者は日本文化史についても深い知識を有たるる所から、本書も文化史的の傾向多分で、上代より筆を起して明治時代に迄及んで居る。内容は大部分記述的で、理論的の部分は極めて尠く、從つて平易である。

わかることの教育觀　勝部謙造著　昭八、九　同文書院　菊判三五〇頁　附錄六八頁　二、八〇

デイルタイ學者である著者が、從來の外國直輸入の教育學說に不滿を感じ、「こゝに教育者自身が反省一番して自己獨特のフイロゾフィーレンに進まんことを切望せざるを得ない」と云ひ、又「充分にわかること、會得合點の行くこと、このことに教育活動の全面に涉る內核的力素がある」と云つて、この題目の下に著者自身の哲學的教育觀が述べられてある。稍々難解の書である。附錄として「眞理と生命」「橫から見たドイツの學苑生活」の三篇が附せられてある。

第五　文學

伊勢物語に就きての研究　上、校本篇

池田龜鑑著　昭八、九　大岡山書店　菊判三三五頁　附錄五一頁圖版六圖　八、〇〇

本書は上下二卷刊行豫定中の上卷校本篇で、本書の底本としては假名本として三條西伯爵家藏傳定家筆本の伊勢物語をとり、眞名本の底本としては寛永廿歲九月吉日澤田庄左衞門板行の刊記あるものをとつた旨が示されてある。この二本を底本とし、尙その他四十三本と比較校合せられてある。附錄としては「校異を出さゞる異體字並に通用字の表」「伊勢物語諸本章段對照表」「伊勢物語和歌索引」等があり圖版として古寫本彙影六十圖が收められてある。

江戸文學研究

山口剛著　昭八、一〇　東京堂　菊判七五九頁　四、八〇

本書は著者の歿後編纂せられたもので、江戸文學を史的に系統的に述べたものではないが、江戸文學の典型をなす西鶴もの、淨瑠璃もの、怪異小說、黃表紙、洒落本、讀本等に關する著者の研究を集めたものである。

エリオット文學論

著者T・S・エリオット（Thomas Stearne Eliot）は、米國に生れて英國に歸化した英米文壇の新進學徒である。

テイー・エス・エリオット著　北村常夫譯　昭八、一一　金星堂　菊判三八九頁　一、五〇

こゝに譯された十五の文學論文は、譯者の序によれば主として〝Selected Essays, 1917—1932〟の譯であるが、尙この選集にない數篇を補つたことが斷つてある。詩や批評に關する一般論もあれば、英文學に關する論文、又ダンテ、ボードレール等の外國文學に關する論もある。

己がこと人のこと

大谷繞石著　昭八、一一　春陽堂　四六判四〇五頁　一、八〇

著者は英文學者であるが、子規をはじめとして虛子、碧梧桐、四方太、鳴雪、青嵐等明治以後の文壇、殊に俳壇との交遊が深い。故にこゝに描かれた「己がこと人のこと」は主として之等俳壇の人々との交遊錄で、既に俳句雜誌等に揭載されたものもあるが、たゞ筐底に藏せられたものが今回新たに出刷に附せられたものもある。三十餘の小文集である。

懷風藻註釋

澤田總清著　昭八、七　大岡山書店　四六判附錄共四三七頁　三、八〇

現存の我國最古の詩集と云はるゝ懷風藻を、原文・譯文・解題・考異・語釋・通解・詩體・評等の各項目に分つて記述したもので記述は平易である。尙附錄として作者人名、官職位階等につき略解が施されてある。

書かれざる作品

豐島與志雄著　昭八、九　白水社　菊判二五七頁　二、〇〇

傍題に評論・隨筆とあつて、大正十四年から昭和八年までに折にふれて書かれたものを集めたものである。隨筆の中にはコント風の短篇小說も幾つかあり、又この著者特有の心境を述べた全くの隨筆も相當ある。文藝評論としては「性格を求む」「文學以前」「文學の曇天」等の數篇が數へられ、すべてで三十八篇が收められてある。

歌話と隨筆

窪田空穗著　昭八、一一　一誠社　四六判四〇四頁　二、五〇

內容は歌話と隨筆と二つの部分に分れ、歌話は歌集並びに歌に對する評を主とし、之に加ふるに幾分の歌に關する隨筆があつて前著「短歌隨見」以後のものが收められてある。隨筆は前者「消燈前」以後のものを收め、全體として輕やかな、趣味の豐かな讀物である。

雲・草・人

平塚らいてう著　昭八、七　小山書店　四六判三二六頁　二、〇〇

主として著者の身邊雜記で、大正から昭和にかけての十數年間のものが收められてある。內容は「自然と生活篇」として四〇篇、「母子篇」として二十一篇、「婦人と社會篇」として二十篇が數へられる。何れも一頁乃至數頁の短文のみである。

國民傳說類聚 前輯　島津久基著　昭八、一〇　大岡山書店　四六判五三五頁　三、八〇

我國各地に殘つて居る諸種の國民傳承中から典型的なものを選輯類別したもので、前後二輯に分たれ、こゝに揚げた前輯には神話篇、童話篇、傳說篇(上)が收められ、後輯には傳說篇(下)が收められる豫定である。神話篇として十五篇、童話篇として十七篇、傳說篇として三十五篇が本書の內容で、その何れにも解說が附せられ、又挿繪が挿入せられてある。

思想遠近 研究・批評　紹介・隨筆　谷川徹三著　昭八、一〇　小山書店　四六判四〇二頁　二、三〇

文藝評論集とも云ふべきであるが、副書名として傍記してある通り、著者獨自の見解の下になる文學研究、ゲーテ、リカルダ・フツフ等の外國文學者やら、日本の自然主義文學者やら、その他の研究並に作品へ對する批評をかねた紹介、著者自身の漫然たる隨筆小品等を集めたものである。

詩と體驗　ウイルヘルム・ディルタイ著　佐久間政一譯　昭八、九　モナス　菊判五五四頁　四、五〇

本書はディルタイ（Wilhelm Dilthey）の名著〝Das Erlebnis und die Dichtung〟の邦譯で、內容目次を示せば次の通りである。

「近世歐洲文學の變遷」—「ゴツトホルト・エフライム・レツシング」—「ゲエテと詩的想像」—「ノヴアーリス」—「フリードリツヒ・ヘルデルリーン」

支那文學雜考　兒島獻吉郎著　昭八、一〇　關書院　菊判四六五頁　三、三〇

內容は十篇に分たれ、その中、第一篇「毛詩考」第二篇「楚辭考」第三篇「詩仙李白考」第四篇「詩聖杜甫考」第五篇「詩佛王維考」第六篇「唐宋文學史考」は主として研究篇で、第七篇以下は「樂府に見はれたる支那詩人の戀愛思想」「樂府に見はれたる支那詩人の軍事思想」「樂府に見はれたる支那詩人の慧愛思想」「予の倫理觀」「予の文章觀」等となつてゐる。用語、文章等稍々專門的にして難解である。

春琴抄　谷崎潤一郎著　昭八、一二　創元社　四六判三三八頁　一、九〇

內容は三つに分れてゐる。第一が書名の「春琴抄」で、之は明治初年の大阪の檢校春琴の傳記を小說風に記したものである。第二は小說「蘆刈」、第三は戲曲「顏世」となつてゐる。何れも百頁前後のものである。

閑板書國巡禮記　齋藤昌三著　昭八、一二　書物展望社　四六判三〇四頁　二、八〇

內容は東西南北の四路に分たれてある。勿論この四路は地域的の意味ではなく、東路は溫故隨錄と註せられ、主として我國各種雜誌の史的考證である。西路は縱談橫語と註せられて裝幀、藏書票、その他書誌關係新刊本の讀後感で、書痴放談と註せられた南路は愛書家としての著者の書物漫談であり、北路は趣味遍路としてある。就中東路の日本雜誌興亡史考、圖書關係雜誌解題は何れも雜誌「書物展望」に年餘に亘つて掲載され、本卷の半に近い長篇である。

新古今和歌集評釋 上、下卷　窪田空穗著　上卷昭七、一一　東京堂　菊判上五四〇頁　上卷三、五〇
下卷昭八、一二　下七五一頁　下卷四、〇〇

本書は新古今集の全部に亘つての評釋ではない。新古今集時代の作家の歌だけを選んで評釋を加へたものである。斯くした理由について著者は、新古今集の特色は新古今集時代の作者の歌にあること、全部に亘つてなすことは多くの紙數を要するのみならず、その割合に讀者にとつて益のないこと等を擧げてゐる。又本書に收められた範圍は春の歌上下、夏の歌、秋の歌上下、冬の歌の都合六卷で、之に語釋並に評釋を加へたものである

新修シエークスピヤ全集 第一五、二〇、二二、二四、二五、二七卷　坪內逍遙譯　昭八、九—一二　中央公論社　菊半截判各約二〇〇頁　各、五〇

嘗て早稻田大學出版部より出版せられたシエークスピヤ全集に、全體に亘つて譯者自ら譯語の改訂を試み、菊半截の小型本として上木されたもので、この目錄收錄期間に發行されたものは左の六冊で、月二冊づゝ二十ケ

月四十冊の豫定である。

第一五卷　ベニスの商人　第二〇卷　十二夜　第二二卷　以尺報尺
第二四卷　タイタス・アンドロニカス　第二五卷　ロミオとヂュリエット　第二七卷　ハムレット

新俳文　高濱虛子著　昭八、一二　小山書店　四六判二八一頁　二、〇〇

序文には「俳句が花鳥を風詠するやうに、人生を諷詠した短い文章を、最近二年間許り「ホトトギス」「玉藻」に載せた。其れを集めたのが此一篇である」とある。日常身邊に起る事柄を平淡な筆致をもつてスケッチしたもので全部で三十數篇になつてゐる。

太閤記　第一四　矢田挿雲著　昭八、一二　寶文館　四六判四〇五頁　一、八〇

退讀書歷　柳田國男著　昭八、七　書物展望社　四六判三一六頁　三、〇〇

內容は「批評集」「序跋集」「讀書雜記」の三部分に分たれ、批評集は金田一氏著「アイヌ研究」を初め、主として著者專門の民俗學に關する著書十種に對する批評集で、「序跋集」の方も同樣民俗學關係の二十一種の著述に對する著者の序及び跋を集めたものである。最後の「讀書雜記」、これは著者の讀書偶感に類するもの十數篇を集めたもので、既に雜誌や新聞に發表されたものが多い。

日本合戰譚　菊池寬著　昭八、九　中央公論社　四六判五二一頁　一、五〇

雜誌「オール讀物」に連載した合戰譚十三篇を集めたものである。何れも合戰當時の事情、武將の人となり、合戰の樣樣等を史實によりつゝ讀物風に書いたものである。收錄された合戰は姉川、嚴島、川中島、桶狹間、田原坂、長篠、賤ケ嶽、山崎、碧蹄館、島原、鳥羽伏見、大阪の陣等の諸合戰である。

俳諧歲時記　春、夏、秋、冬新年の部　改造社編　昭八、七—一一　改造社　四六判橫綴各約七〇〇頁　各一、五〇

季題解說、實作注意、例句、古書參考等の項目が設けられ、單なる季寄せ以上に詳細で、執筆者も當代俳壇の名ある人々に依頼してある。その他に參考として載せられた天文、人事、宗教、動植物に關しても一流の科學者の意見が載せられてある。唯各卷に多少の重複のあるのは、新曆と舊曆との關係上、重複を承知で重出した事が「例言」の中に斷つてある。

白詩新釋　簡野道明著　昭八、八　明治書院　四六判五七八頁　索引三八頁　三、二〇

「唐賢の詩、篇什最も富む者は白居易に如くは無い」著者は例言で斯う述べてゐる。白居易、字は樂天、云ふ迄もない。こゝには白樂天の詩四百數十を取りあげて、之に通釋を加へてゐる。卷末に附せられた語句索引三十八頁は相當便利である。

芭蕉の研究　小宮豐隆著　昭八、一〇　岩波書店　菊判五〇五頁　三、二〇

全卷十六篇、何れも大正十五年から昭和八年までの間に、各方面の雜誌に發表し來つたものを一纏めにしたものである。「芭蕉」「不易流行說について」「さび・しをりに就いて」「芭蕉の戀の句」「芭蕉の南蠻紅毛趣味」その他で、何れも芭蕉の研究並に鑑賞に關する小論文である。

百鬼園隨筆　內田百間著　昭八、一〇　三笠書房　四六判三五〇頁　二、五〇

著者は漱石門下の優れた文筆の士として知られてゐる。本書はこの著者が數年來諸雜誌や新聞に發表し來つた隨筆三十六篇を輯めたもので、その洒脫な雰圍氣は全くこの著者獨特のものとして一般に認められてゐる。

正岡子規（明治文學研究第二卷）　藤川忠治著　昭八、九　山海堂　菊判五三〇頁　附錄四九頁　三、〇〇

正岡子規が明治文壇に遺した文學上の業績についての研究で、第一編に子規の人となりを殊に青年時代以後に詳しく記し、第二編では子規の俳諧方面に於ける業績を、第三編では歌壇に對する業績を述べ、第四編に小說乃び新體詩、第五編に子規の寫生說について論ぜられてゐる。附錄として年譜並に俳句、和歌の索引、子規研究文獻目錄等が載せられてある。

正岡子規全集　第四卷

正岡子規著　昭八、三　改造社　四六倍判四一七頁　二、五〇

この卷には「少年時代創作」として明治十七年より二十二年迄のもの十六篇、「編著」として銀世界、病床日誌、富士のよせかきの三篇、「漢誌稿」として明治十一年より二十九年迄のもの、及び「日記」として明治二十五、六兩年の獺祭書屋日記と明治三十年の病床手記等が載せられてある。

萬葉集全釋　第四册

鴻巣盛廣著　昭八、一〇　大倉廣文堂　菊判六六二頁　六、三〇

本册は萬葉集卷十二から卷十五迄の全釋で、最初に萬葉假名で原文を示し、之に訓み方並に意譯を附し、最後に評を附してゐる。寫眞挿繪等比較的多數に挿入せられ、記述は平易で理解に易い。

萬葉集草木考　第二卷

岡不崩著　昭八、八　建設社　菊判六〇三頁　附錄三一頁　六、五〇

內容は四編で、第一編では玉箒、第二編では若菜、第三編では蕗芽子（ウハキ）、第四編で本漏能木（ムロノキ）等に關して精細に考證せられたもので、記述は相當專門的である。附錄として參考書目、索引等三一頁が附せられてある。

明治大正昭和文學講話

高須芳次郎著　昭八、九　新潮社　四六判四九二頁　索引三四頁　一、九〇

時代から云へば明治の初期から中期後期を經て大正昭和迄、思想から云へば明治參明期の新文化思想から、ロマン派、自然主義、藝術派から近頃のファッショ文學迄を、この著者一流のジャーナリスティックな筆で書いた明治大正昭和の文藝思潮史と云ふべきものである。卷末には人名並に著作索引三十四頁が附せられてある。

山內義雄譯詩集

山內義雄譯　昭八、一二　白水社　菊判一六九頁　二、五〇

譯者は佛蘭西文學專門家であるので、從つて本書は佛蘭西譯詩集である。ベルトラン、マラルメ、ラフォルグ、モレアス、レニエ、ポオル・フォオル、シュアレス、ファルグ、クロス、カルコ、ジャコブ、ジュウル・ロマン、クロオデル、フィリップ、ヴァン・レルベルグ、ヴェルアラン等の詩が譯されてゐる。

謠曲選講

佐成謙太郎著　昭八、九　明治書院　菊判五〇二頁　索引二一頁　三、三〇

最初に「能謠略說」として三十二頁、之は序論の形式に依つて、極めて簡單に能並に謠についてその沿革流派等の一般的な事から種類、組織、舞臺、扮裝、裝置、演出等につき解說し、次に本文として謠曲三十番を選び本文と對照して釋解せられてある。卷末には事項索引二十一頁が附せられてある。

與謝野晶子全集　第一、三、五、九卷

與謝野晶子著　昭八、九—一二　改造社　四六判各約四五〇頁　二、〇〇

第一卷は歌集で、亂れ髮、小扇、毒草、戀衣、舞姫、夢の華、常夏、佐保姫、春泥集等の初期のものが含まれ第三卷も同じく歌集で火の鳥、太陽と薔薇、草の夢、流星の道、繪卷のために等を收め、第五卷も歌集で之には比較的新らしい霧島の歌、深林の香、落葉に坐す、北海遊草、沙中金簪等が收められてゐる。第九卷は散文集で、一隅より、巴里より、雜記帳、人及び女として、我等何を求むるか、愛・理性及び勇氣、著き友へ等が入れてある。

わが子を歌へる

百田宗治編　昭八、一二　厚生閣　四六判五〇〇頁　一、八〇

內容は卷頭に「日本詩歌と兒童」の一篇を揭げて兒童を對象とした詩歌について概觀し、以下を上下二篇に分つてゐる。上篇は明治以前の作品を時代順に配列し、下篇は明治以後の作品を、學校、家庭、露旅、病兒等の主題に依つて分ち並べ、之に簡單な編者の註並に感想が附せられてある。又卷末には作者別索引も附せられてある。

第六　語學

英文學風物誌

中川芳太郎著　昭八、一一　研究社　菊判七二七頁　附錄四〇頁　五、五〇

凡そ英文學並に英文學史にゆかりのあるあらゆる事項を集錄して之に解說を下したもので、一種の辭典である內容は三部に分たれ第一部は「生活」篇、第二部は「制度」篇、第三部は「風土篇」となつて居り、挿繪寫眞

等を豊富に用ひて說解せられてある。附錄としての四〇頁は、英語を見出しとした索引である。

言語研究　金田一京助著　昭八、一一　河出書房　菊判三一二頁　三、〇〇

著者は東京帝國大學助教授で言語學が專門であるが、特にアイヌ語の研究家として有名である。本書も內容は前後二編に分たれ、前編は「言語篇」としてこゝには一般言語に關して考察せられてあるが、後編は「アイヌ語編」として、特にアイヌ語に關する研究がなされてある。記述は平易であるが內容は相當專門的である。

國語音聲學概說　佐久間鼎著　昭八、一二　同文館　四六判四二四頁　二、三〇

日本語についての音聲學的研究の好著としては、同一著者に依る「日本音聲學」(昭和四年刊)があるが、本書はそれ程專門的ではなく、寧ろ極めて平易に、國語の音聲、アクセントについて概說したものである。序に依れば內容の大部分は前著「國語アクセント講話」(大正十二年刊)及「國語音聲學講話」(昭和四年刊)を合して增補訂正をしたもので、「國語音聲學概說」「音聲學の成立とその應用」「アクセントの心理的觀察」「言葉の調子と感情の表出」の四部分より成つてゐる。

日本英學發達史　竹村覺著　昭八、九　研究社　菊判二八一頁　年表並索引八八頁　二、八〇

內容は解釋篇、發音篇、文典篇、文學篇、沙翁篇の五篇となつて居り沙翁篇以外は多くは幕末の日本に於ける英語學研究の歴史を考證したものである。日本に於ける英學發達史であると共に、一面書誌學的の研究である。

佛語動詞時法考　關根秀雄著　昭八、一〇　白水社　菊判二二三頁　二、三〇

佛蘭西語動詞の性質の中、特にそのテンスとムードに關する研究で、高等文法に屬するが、邦語としては類書が尠い。著者は序の中に、本書がニロッブ並にブルーノーの著書に準據してゐることを斷つて居る。

第七　歴史

會津戊辰戰史　會津戊辰戰史編纂會編　昭八、八　同會　菊判七四〇頁　三、〇

會津戊辰戰史を大政奉還より說き起し、伏見鳥羽の戰、江戸及近傍の戰、總野の戰等を先づ述べて天下の大勢を概觀せしめ、次に東方の戰、越後方面の戰、會津の形勢、會津城下の戰等所謂奥羽越列藩の同盟からその崩壞迄を資料を中心に綴り合せたものである。

概說西洋史　及川儀右衞門著　昭八、一二　星野書店　菊判五七一頁　三、五〇

著者は序言に「西洋史なるが故に西洋人の見解を無條件に鵜呑みにせよとの態度には全然承服し能はざるものである。(中略)學校の教科として行はれる西洋史に、無批判的に西洋人の見解や研究を傳承することが、實は甚だ無意味であることを考へずには居られない」と云つてゐる。この見解に從つて、本書では上古西洋文化の起源から現代世界に於ける我が帝國の地位に至るまでを適度に纏め上げてある。

近世日本國民史　第四三、四四篇　德富蘇峰著　昭八、八—一二　民友社　四六判各約五五〇頁　各二、五〇

第四三篇「櫻田事變」、第四四篇「開國初期」

現代の世界史　時野谷常三郎著　昭八、九　共立社　菊判二八七頁　二、〇〇

序文によれば本書は著者の大阪及び京都に於ける二つの講演「史眼に映ずる現代歐洲」「現代歐洲の史的考察」を增補訂正して出版したものである。從つて內容はすべて歐洲の歴史で、米國その他は揭げられてゐない。目次を記せば次の如くである。

第一章「民族主義と世界主義」　第二章「民族主義と世界大戰」—第三章「世界大戰後に於ける民族主義」　第四章「大戰後に於ける民主思想の推移」—第五章「國際協調主義の發展」

國史學入門　藤崎俊茂著　昭八、七　金星堂　四六判二四三頁　一、五〇

著者は東京高等學校教授で、本書で說く所は國史學研究の方法で、內容は古文書學の一斑、史料の批判選擇の方法、資料蒐集の方法等の問題に亙つて居る。

趣味の史話

名越那珂次郎　著　昭八、九　積文館　菊判三四八頁　三、二〇

主として近世史(德川時代)の中より種々の題材を求めて、餘り堅くなく、趣味の讀物として書かれたもの三十三篇が集められてある。著者の意圖が修養の資とせんとする所にあるので、從つて選ばれた題材も書き方もその方に傾いてゐることは云ふ迄もない。因に著者は京城帝國大學豫科教授である。

上代日本の社會及思想

津田左右吉　著　昭八、九　岩波書店　菊判六〇六頁索引八頁四、〇〇

内容は「書紀の書きかた及び訓みかた」「神とミコト」「大化改新の研究」「上代日本人の道德生活」の四篇を集めたもので、最後のものを除く他の三つは、何れも既に史學雜誌その他に掲載せられたものである。上代史を說くと共に、その時代の社會狀態を見ようとしてゐるのである。

世界歴史大系　第三・一四・一九卷

平凡社編　昭八、一〇　同社　菊判各約六〇〇頁　各二、八〇

第三卷　東洋古代史　第一篇（橋本增吉著）
第一四卷　西洋古代史　第一篇（杉勇、石橋智信、大畑清著）
第一九卷　西洋近世史　第二編（阿部實、佐藤堅司著）

ドーソン蒙古史

ドーソン著　田中萃一郎譯　昭八、一〇　三田史學會　菊判七〇八頁索引二四頁　六、〇〇

原著者ドーソン男爵はアルメリヤの人で、瑞典の外交官として十九世紀の前半歐洲各國に駐在した人である。數種の著述があるが、本書はその主著であるばかりでなく「歐文蒙古史のうちにあつて最も典據となすに足るべきもの」と一般に認められてゐる。この譯書の第一卷は明治四十二年に既に出版されたのであるが、第二卷は故田中博士の遺稿となつたもので、今回この一、二卷を合本して出版されたのである。

讀史備要

東京帝國大學文學部史料編纂所編　昭八、七　内外書籍株式會社　四六判二一五四頁　一〇、〇〇　特價八、五〇

各種廣汎に亘つての年表、一覽表、系譜等を集めたもので、極めて多岐に亘つてゐる。内容は三つの類に大分けされてある。即第一類は歴史年表を初め、歴朝一覽、女院一覽、武家、大名一覽、官職制一覽、國郡沿革一覽、年中行事一覽その他一般一覽を集めたもの、第二類は皇室、親王家を初め諸氏の系譜系圖、佛教宗派、儒學、國學、歌道、香道その他の學系、美術工藝、諸藝の系統、武術系圖等、第三類は諸索引となつてゐる。

日本國民史　上卷

齋藤斐章　著　昭八、八　賢文館　菊判六三四頁　四、八〇

本書は大正九年に出版された日本國民史の大改訂版で、前版は既に大正十二年の關東大震火災の爲原版を燒失して絶版となつてゐる。この改訂版は前版に比し頁數は大約二倍、從つて上下二卷に分たれてゐる。この上卷は太初より室町末期迄で、時代區分は、神代史—民族制時代—新政時代—奈良時代—平安時代—鎌倉時代—吉野時代—室町時代となつてゐる。

佛國革命及ナポレオン時代史講話

齋藤清太郎　著　昭八、九　明治書院　四六判三七三頁索引二三頁　二、五〇

本書は嘗に公刊せられた「西洋近世史講話」の續篇で、佛蘭西革命前後の約百年間について詳說せられてゐる。この時代の佛蘭西史を說くことは同時に歐洲史を說くことであつて、本書ではルイ十五世の即位から初めてルイ十六世、革命、ナポレオンの出現、ナポレオン帝政、ナポレオン帝政の敗亡迄が取扱はれてゐる。

●滿洲國歴史

矢野仁一　著　昭八、九　目黒書店　四六判三五四頁　二、五〇

内容は六つに分たれてゐるが、その第一、第二は滿洲を支那の一部と見なす國際聯盟並に支那の歴史學者に對する著者の反駁文で、全篇の序論と云ふ形式になつてゐる。第三は滿洲國史梗概で、これが本書の主要部分で戰國時代より清朝末期迄の歴史である。第四、五、六は滿洲事變並に滿洲國獨立に關する著者の意見で、雜誌掲載の論文及び講演を集めたもので、著者は特に之を本書の餘論であると斷つてゐる。

滿鮮史研究　中世第一冊

池内宏　著　昭八、一〇　岡書院　菊判七〇四頁索引一九頁　六、五〇

中世第一冊として收められてゐるのは滿洲に關する十三の論文で、時代は遼、金、元の三朝である。各々の論文

は何れも研究報告や雜誌論文の形式で既に發表されたものに多少の加筆訂正をせられたもので全然專門的な研究書である。因に中世篇としては三册刊行の豫定である。

亞米利加史　列國史叢書　淺野利三郎著　昭八、一〇　三省堂　四六判五四五頁　索引二一頁　二、八〇

本書ではアメリカ大陸發見の前後も簡單に叙述してはあるが、大體はイギリス人のアメリカ植民以後で年代から云へば十七世紀頃からである。以後三百餘年で今日の大アメリカ國になるまでの歴史が極めて詳細に、植民問題、民族問題、國際問題、經濟問題、文化問題等あらゆる方面に亘つて居り、大戰後の軍縮問題、世界經濟會議等の現代史に迄及んでゐる。類書はまことに少ない。

伊太利史　列國史叢書　大類伸　平塚傳　昭和八、七　三省堂　共著　四六判三五七頁　二、三〇

亞米利加などに較べれば伊太利はまことに古い國である。從つて近世世界史上に於てこそ第二流國家に過ぎなかつたが、その光彩ある文化は一時は世界文化の根元でもあつた。本書ではこの伊太利を紀元五世紀頃の所謂闇黑時代より筆を起し、文藝復興時代の全盛期に於て最も詳しく、十九世紀の國土統一を經て現代のファシスト國家に至る迄が叙べられてゐる。

第八　傳記

機械の父　ワット正傳　サミュエル・スマイルス著　伊澤梅吉譯　昭八、一〇　日本海事學會　四六判二七三頁　一、五〇

蒸氣機關發明者として我國に紹介されてゐるワットの傳記で、著者は「自助論」で有名なスマイルスである。從つて本書で取扱はれてゐるワットは生れながらの大天才ではなく、刻苦精勵の結果あの大發明に到達したので「大天才は人一倍苦しんでこそ、生れ出づるものである」と云ふ鐵則を本書に依つて世に知らしめんとするもので、內容は相當精確な資料に依つて居る。又この翻譯は原著の逐次全譯ではなく、餘り詳細にわたることは冗漫と思はる點は適當に取捨按排したと斷つてある。機械の說明には多少の專門語が用ひられてある。

皇室の御紋章　佐野恵作著　昭八、九　三省堂　菊判一一三頁　一、〇〇

皇室の象徴である菊の御紋章の沿革、樣式、取締一般に關する研究で簡單ではあるが類書がない。著者は宮內省に勤務せられ、御紋章に關する事務の擔任者であることが序文の中に示されてある。終りに桐の御紋章に關する調査も簡單になされてゐる。

修補　殉難錄稿　前後篇　宮內省編　昭八、一〇—一一　吉川弘文館　菊判　前篇五八六頁　後篇四四八頁　各二、八〇

本書は嘉永六年黑船渡來より明治元年大政奉還迄の十五年間に、憂國の志士にして身を非命に失つた者の傳記を集成したもので採錄人員二千四百八十餘人に及んで居り、明治四十二年に一旦完成したものに今回修補訂正を加へたものである。配列は志士殉難の年代順にしたもので、全五十五卷を二册に分つて前篇には卷之一より卷之二十三迄下篇には卷之二十四以下が收められてゐる。

野口英世　奥村鶴吉編　昭八、七　岩波書店　四六判六六二頁　一、八〇

野口英世博士の傳記を、文書、書簡、談話等の正確な資料に依つて編纂したもので、野口家の父祖の代より初め、幼少年時代の母の慈愛とその苦心、青年時代の苦學、渡米後の苦闘、そして醫學界の王座を克ち得て、遂にアフリカで黃熱病の研究中に自らこの病に冒されて同地に逝去する迄の五十三年の生涯が詳細に記されてある。

奮闘活歴　拔群の人々　都倉瓊川著　昭八、八　實業之日本社　四六判二八四頁　一、二〇

本書は十二人の衆に卓越した人の傳記を集めたものである。衆に卓越した人と云つても從來よく見る立志傳の樣に、所謂功成り名遂げて社會的の名聲を博した人々ではなく、中には大銀行の重役もあり、大事業家も一人二人は居るが、多くは一貫してその信念と努力に於て衆の鑑となり得る人々の、境遇に善處して自らの行く途を開拓して行つた言行錄である。

第九　地誌、紀行

歐米の隅々　市河三喜・河野子晴共著　昭八、七　研究社　四六判七五三頁　二、五〇

英語學者である著者の世界漫遊記で、コースは先づ支那からロシヤに入り、歐洲大陸を通りアメリカに渡つて歸朝して居られる。歐洲では英、佛、獨、伊は固よりスペイン、ポルトガル、北歐諸國、中歐諸國、バルカン半島、エヂプト等可也隅々までに及んだ極めて詳細な紀行である。

奥秩父　原全敎著　昭八、七　朋文堂　四六判六一八頁　二、五〇

奥秩父を吾が家の庭の延長の如く考へてゐる著者が、何向となく歩き廻つた多摩川上流地方を、自分の紀行を中心に、秩父山村地元の人々の話を取入れて詳細に奥秩父の地誌を語り、登山コースを敎ふるものである。奥秩父と云つても本卷では主として多摩川流域地方に關するもので所謂奥秩父の核心ともなる地方については卷を改めて刊行する豫定と凡例に斷つてある。

集成概觀滿洲國地誌　長谷川與三治著　昭八、八　修文館　菊判四三〇頁　二、〇〇

内容は「自然地理」編、「人文地理」編、「處誌」編、「日滿關係の諸方面」の四編より成り、記述には一々資料となつたものゝ書名を附記して著者單獨の所説研究にあらざることを明示してゐる。こゝに「處誌」と云ふのは地方誌の謂で、奉天、吉林、黑龍江、興安、熱河の五省に分たれてゐる。

ギリシヤとスカンヂナギヤ　安倍能成著　昭八、一二　小山書店　四六判二六〇頁　二、三〇

著者は京城帝國大學敎授で、本書は大正十三年より十五年へかけての歐洲游記の一部である。紀行集としては稍々古いものであるが、特にギリシヤとスカンヂナギヤのみに關したものは類書が尠い上に、この著者の藝術並に自然に對する觀賞眼には獨特なるものを見出せる。

近畿景觀　第四　紀伊・伊賀　北尾鐐之助著　昭八、一一　創元社　四六判四六四頁　二、〇〇

近畿景觀の第一が出たのは昭和四年で、その後第二大和河内篇、第三近代大阪篇と續刊され、本篇は近畿地方中最も僻陬の紀伊と伊賀兩國の景觀で、名勝舊跡は固より隨分奥地まで足を運んで居る。挿入されてゐる寫眞三十葉は例によつて著者自作のものである。

スキー・ツアー　菅沼達太郎著　昭八、一一　大村書店　菊判二一四頁　一、〇〇

スキー適地の案内書で、スキー技術に關することは全然ない。そのスキー地も本書では東京を中心として一日二日行程のものを主としてある。收錄された地方は關、赤倉方面、野澤温泉方面、志賀高原、草津附近、菅平鹿澤温泉一帶、上越方面、奥日光、赤城、那須方面、五色温泉附近、霧ケ峰、八ケ岳地方、富士、日本アルプス方面等である。

世界商業交通地理　藤田元春著　昭八、九　中文館　菊判五八五頁　四、八〇

本目錄經濟の欄に收錄した「現代産業地理講話」と同樣、本書も産業地理乃至は經濟地理に屬するものであるが、「現代産業地理講話」に比して遙に人文地理學的である。即内容は同じく産業的生産物を扱つても、本書では地域的關係に重きを置き、商業上の交通に主眼を置いて生産物の集散を論じてゐる。

世界地名大辭典　下卷ヒーフ補遺　小林房太郎編　昭八、一二　南光社　四六倍判補遺七〇一頁三二頁　一〇、〇〇

●地上を行くもの

齋藤清衛著　昭八、一二　改造社　四六判五五〇頁　一、六〇

著者は前廣島高等師範學校國文學敎授で、そのかみの芭蕉、西行にならつての行脚旅行家として著名で、人呼んで「今西行」と云つてゐる。本書は著者幾多の旅行の中、昭和八年の春淺き頃神戸を發して晩春の五月半東京に達する迄の五十餘日の旅行記である。この行脚旅行はなるべく本街道を避けて、昔の宿驛を丹念に辿り歩いて附近の名所舊蹟を訪れたもので、その内容と共に文章も素朴な落着を有つてゐる。

南米繪の旅　矢崎千代二著　昭八、七　實業之日本社　四六判三一九頁　一、五〇

著者はパステル畫家として有名であると同時に、いつも三等船客となつて繪を賣つては世界中を旅して歩く旅

行家としても亦著名である。本書は二年間ブラジルに滞在し、彼地の事情を充分觀察して書いたブラジルの移民事情が主なるもので、「ブラジル繪行脚」「コーヒーの香を嗅ぐ」「アマゾンの大自然を往く」の三部よりなつてゐる。

日本アルプス登山と紀行　ウエストン著　岡村精一譯　昭八、一二　梓書房　四六判三六一頁　二、五〇

ウエストンと云へばガウランドと共に我國近世登山史の第一頁を飾る人で、明治二十一年から二十八年迄、同三十五年から三十八年迄、同四十四年から大正四年迄と三回にわたり日本に滞在した英國の宣教師で、本書はその第一回の日本滞在中に日本アルプスを登破した登高記で、我國近代式登山の初期の記錄として珍らしいのみならず、當時の山岳地方の風俗誌をも窺へるものである。原書名は次の如くで一八九六年(明治二十九年)の出版である。

W. Weston　Mountaining and Exploration in the Japanese Alps. 1896

山を水を人を　河東碧梧桐著　昭八、一二　日本評論社　四六判四〇九頁　二、〇〇

書名は「山を水を人を」としてあるが、人を語つたのは卷頭の「時鳥鳴く頃」一篇だけの樣に思はれる。他はすべて紀行文で、而もその中後半は「金剛山相」「滿蒙游記」「異國風流」の比較的長い三篇に依つて占められてゐる。就中最後の一篇「異國風流」は最も長篇で、主として伊太利游記である。

第十　政治

歐洲近世外交史　上卷　增訂新版　林毅陸著　昭八、九　一誠社　菊判三七二頁　三、五〇

本書はその初版は明治四十一年に出版され、その後絶版になつてゐたものを、最近の部分(下卷)に多少の增補訂正を加へて出版されたものである。上卷では一七〇一年から始めて一八四一年迄、即ち一七一三年のイギリスのウトレヒト條約前後から佛蘭西革命を經て、希臘、白耳義の獨立、埃及の半獨立迄の歐洲外交史が扱はれてゐる。

日本都市年鑑　第三卷　東京市政調査會編　昭八、一〇　同會　菊判五〇四頁　三、〇〇

第三卷は昭和九年用として出版され、編輯方法は前卷と變りはない。唯第二卷は最新日本都市年鑑としてあつたが、本卷では冠稱の最新が除いてある。

第十一　法律

恩給法精解　附舊法　令解說　上原秋三著　昭八、一二　岩波書店　菊判八九三頁　五、〇〇

著者は內閣恩給局審査課長で現に恩給事務の實際に與つてをり、從つて恩給法の解說者としては最も適任者であると思はれる。本書は恩給法について、その理論的解說よりは實際問題に重きを置いて說明したもので、各條項の說明にも「例說」の項下に豐富な具體例を示して解說をしてゐる。

新聞法制論　榛村專一著　昭八、一一　日本評論社　菊判六六五頁　五、〇〇

非常に多くの參考書(主として獨逸書)を用ひて新聞法制に關して論じたもので、專門的研究であるが記述は平易である。殊に法律書の退屈さを幾分でも緩和しやうと云ふ著者の心遣ひから、隨所に六號活字で餘談めいたものが挿入されてゐる。著者はこの方面の特殊研究家であり、本書亦この方面の邦語圖書として類書の少ないものゝ中の一つである、

世界法の理論　第二卷　田中耕太郎著　昭八、一〇　岩波書店　菊判六〇三頁　五、三〇

第一卷は昭和七年一月に刊行せられ、本書はその續刊である。內容は前卷に引きつゞき、第六章「自然法と世界」及び第七章「國際私法と世界法」の二章で、全く專門的な、この著者獨特の研究である。本卷では殆ど大

部分が第七章の爲に費されてゐる。

第十二　財政、經濟

貨幣問題雜觀

山崎覺次郎　著　昭八、一〇　有斐閣　菊判三二六頁　二、八〇

前著「貨幣銀行問題一斑」（大正九年）「若干の貨幣問題」（昭和二年）につゞくこの著者の論文集で、昭和三年以後同七年迄に發表された貨幣問題關係の左記八論文が收められてある。

金の價値及び金本位制の意義—金貨を流通せしめざる金本位制—一九三一年の獨逸の金融恐慌と比例準備の發券制度—貨幣の二種の職能—貨幣法第二條—貨幣單位に關する雜考二三—本邦貨幣制度の改正—露國の一經濟學者の貨幣論

經濟學史要論　第三分冊

堀經夫　著　昭八、八　弘文堂　菊判二九五頁　一、八〇

この第三分冊は第二分冊に引きつゞき「正統學派」に關するもので、第四章「第十九世紀前半の諸經濟學者（續き）」となつてゐて、リカアドウ、マルサス等の承繼者、反對者、女流經濟學者、主觀學派の先驅者、オクスフォード大學の教授等、「分配論」の筆者等の項目が設けられてある。

現代産業地理講話

大鹽龜雄　著　昭八、一一　巖松堂　菊判三三九頁　二、五〇

本書は人文地理の一部門と見做されるが、内容は産業的經濟的傾向が多分である。即ち本書の主なる部分について云へば、農業、林業、牧畜業、水産業、鑛業、工業等に項目を分け、その各々について世界の産地並に市場についての商業的乃至は經濟的動きについて詳說したものである。尙記述の中に常に日本との關係が意識されてあることを見逃せない。

國際經濟の理論と問題

谷口吉彥　著　昭八、一〇　千倉書房　菊判三九四頁　附錄一三頁　二、五〇

著者は云ふ迄もなく京都並に九州帝國大學教授で統制經濟の權威である。本書は「國際經濟の情勢においてわれ〳〵に直面し來る諸問題を捉へて、出來るだけ之を理論的に把握せんとし、また理論を出來るだけ問題的に展開せんとするものである」と序文の中にある如く、國際經濟の理論を系統的に說くと共に、現實の問題を採りあげて抽象的な概念論に終ることを避けてゐる。學術的な專門書ではなく、一般大衆への經濟問題解說の書である。

生の經濟哲學

高木友三郎　著　昭八、七　森山書店　菊判五一〇頁　索引二四頁　四、三〇

我國に於ける經濟哲學は故左右田博士に依つて開拓せられた處であるが、同じ學系に依る本書の著者は、新カント派の價値哲學に形式的暗示を得て本書を物したと云つて居られる。經濟的現象を、著者の謂ふ經驗界のあらゆる現象の四つの根源—主觀と客觀的實在と、經驗以前の主客未分の直觀と、この經驗界の歸趨たる究極理念との四つ—に於て研究しようとするものである。內容は左の五つの論に分たれてゐる。

經濟基礎論—經濟概念論—經濟價値論—經濟現象論　經濟理念論

日本古代經濟　交換篇　第四册貨幣

西村眞次　著　昭八、一〇　東京堂　四六倍判二七四頁　三、五〇

本目錄前號に紹介したように本書は可也浩瀚なもので、この卷は特に貨幣篇として、日本の貨幣をその發生についての諸學說から筆を起し、必要上支那貨幣の發達についての叙述をも含めつゝ平安時代迄研究したものである。研究方法は多分に考古學的である。

マルクス死後五十年

小泉信三　著　昭八、七　改造社　菊判三〇七頁　二、八〇

本書には「マルクス死後五十年」「唯物史觀と共產主義的歸結」「價値論上の効用說と費用說」「搾取理論の根據」「過剩の勞働者と過剩の商品」「ソヂエト計畫經濟」の六論文が收められてゐるが、勿論第一の論文が主たるもので、之はマルクス歿後丁度五十年に當る昭和八年の三四兩月に亘り雜誌改造に寄稿したもので、自餘の諸論文は何れも之が論旨を補ふものである。著者のマルクシズムに對する態度は「一方マルクシズムに含まるゝ眞實の價値あるものを尊重すると共に他面に於て多分の獨斷、誇張またデマゴギイの共に含まれてゐること

を認め、此兩者をば共に忌憚なく指摘し、吟味すること」を心がけて居られる。

我國近世の專賣制度（日本經濟史研究所研究叢書第一册）　堀江保藏著　昭八、九　日本評論社　菊判二六六頁　附錄一四頁　二、五〇

近世の專賣制度として維新以前の各藩の專賣制度を研究したものである。內容は前後二篇に分たれ、前篇は總論として專賣制度一般について考察せられ、後篇に於て鳥取、宇和島、山口、松江五藩の蠟、人蔘、鐵等の專賣について研究せられてある。

第十三　社會

支那叢話　隨筆　入澤達吉編　昭八、八　大畑書店　四六判四〇七頁　一、八〇

本書は同仁會の雜誌「同仁」に掲載されたものゝ中より、支那文化並に支那の社會を紹介するようなもの三十一篇を擇んで一卷としたものである。元來雜誌「同仁」は同仁會の機關誌で非賣のものである爲、本書に收められた三十一篇も世間一般讀者の眼には未だ觸れぬものである。執筆者は長野朗氏始め二十數氏で、何れも彼地の事情に通じてゐる人々で、支那社會の裏面を語る体のものが多い。

臺灣土俗志　小泉鐵著　昭八、九　建設社　菊判三二七頁　二、五〇

著者は大正十四年以來生蕃の研究に從事せられ、その中調査の略々完了せるアミ族とタイヤール族との二族につき、その概括的の叙述をなしたのが本書で、主としてアミ、タイヤール二族を中心とする蕃社の社會制度、風俗、慣習、信仰、年中行事その他の諸事項について記述せられてある。

日本女性發達史　大井田源太郎著　昭八、一〇　日本文化研究所　菊判二八九頁　一、五〇

歴史は表面から見れば概ね男性の活動であるが、その裏面に女性の力の動いてゐることを見逃してはならない歴史を構成するものは正しく男女兩性の力であると見るのがこの著者の主張で、本書は建國以來三千年の歴史を女性を中心に觀察し來つて、その中から日本女性の本質を見出さうとするものである。從つて歴史上の個々の女性について特に詳細な記述があるわけではない。

日本人口問題研究　第一輯　上田貞次郎編　昭八、七　協調會　菊判三八一頁　一、五〇

編者上田博士を中心に集つて出來た日本經濟研究會の研究報告で、將來の我國人口の豫測と云ふことに最も多くの興味を有つて研究された研究の一端である。內容は三部に分たれてゐる。第一部では現在の我國人口問題に關する研究で、第二部は外國人の日本人口論に關する研究の紹介であり、第三部は英、米、獨の人口問題研究の紹介である。

日本民俗學辭典　中山太郎編　昭八、一一　昭和書房　四六判八六八頁索引五三頁五、五〇

この種の辭典では類書がない。我國古來の俗習、民間信仰、傳說等に解說を附し、資料を附したもので、二段組五十音順配列である。

日本勞働年鑑（昭和八年）　大原社會問題研究所編　昭八、一二　同人社　菊判七七〇頁　附錄一三二頁　三、八〇

この年鑑は大正九年版を第一輯として、以來昭和八年版（第十四輯）まで每年出版されてゐるが、本目錄に採用したのは今回が最初である。內容は五部に分たれ、第一部勞働者狀態—第二部勞働者運動—第三部勞働施設及對策—第四部社會事業—第五部思想團體及思想運動となつてゐて、主要な新聞雜誌、各官廳公私團體の報告書等を基礎とし、之に編輯所の直接調査を加へて編纂したものである。

第十四　統計

日本國勢圖會　昭和八年版　矢野恒太　白崎亨一共編

本書の初版は昭和二年で、以後隔年に改訂し來つて、この昭和八年版は第四改訂版に當る。項目を七十五に分ち、我國經濟事情と產業事を主とした統計圖表を集め、記述はこの圖表を說明する程度で、圖表が主になつてゐる。　昭八、一〇　國勢社　菊判四二四頁　一、〇〇

第十五　數學

高等數學總括　野村武衞著　昭八、一二　培風館　菊判二一四頁　二、二〇

內容は高等學校理科の程度で、主として高等學校の理科の學生が、在學三ケ年で學習した數學を整理して大學の受驗に備ふる爲のものである。故に本書の第二篇としては昭和四年度以後昭和八年度迄の各官立大學入學試驗の數學の問題が集められ、之に解答を附してある。

日本數學概說　岡專吉著　昭八、一〇　岩波書店　四六判二一五頁　一、八〇

日本數學とは所謂和算で、維新以前の科學にして歐米の夫と比肩し得る我國唯一の科學である。本書は之を解說したもので、初に簡單な和算の歷史を揭げ、次に本書の大部分は「解術」として古來の和算家の算數諸術を現在使用されてゐる符號並に算式に依つて解說したものである。相當專門的で、高等數學の豫備知識なしでは讀めない。

第十六　理學

ヴアン・ルーンの地理學　上、下卷　ヴアン・ルーン著　內山賢次譯　昭八、六—一〇　厚生閣　菊判　上卷三一六頁　上二、八〇　下卷二七八頁　下二、五〇

雀て「人類物語」「聖書物語」等を書いて世界の讀書界に歡迎された文化史家ヴアン・ルーンの地理學で、地理を說きつゝも元來が文化史家である著者の立場が現はれて、多分に文化史的の說き方である。學術的研究と云ふよりは既に研究された事を著者一流の美しい筆で平易に書き直し、讀物的に一般人に世界地理の常識を植えつけようとするものである。

海洋科學　須田晥次著　昭八、一一　古今書院　菊判七二六頁　六、五〇

廣く海洋に關する研究で、海洋の實地觀測の必要に應ずる目的で著はされたものである。目次の主項目を揭げれば次の如きものである。因に著者は海洋氣象臺に職を奉じ、海洋の實地觀測に從事して居られる。

第一章海洋の形態—第二章水溫—第三章鹽分—第四章海水の現場密度と水壓—第五章海水の透明度と水色—第六章海水の其の他の重要なる諸性質—第七章海流—第八章波浪—第九章潮汐

科學隨想　西村眞琴著　昭八、一一　中央公論社　四六判三五〇頁　一、四〇

本書は科學者であり又ジヤーナリストであるこの著者の隨筆で、內容に別段一貫した科學的の系統があるわけではなく、又一つ一つを取り出しても之に知識的に特に深いものがあるわけでもない。唯漫然として暮す日常生活の中に觸れて來る自然風物に對して、如何にも科學者らしい細かい觀察がなされてゐることを知り得るものである。

科學夜話　石川千代松著　昭八、一二　時潮社　四六判二五四頁　一、五〇

平易な筆づかひで科學を語つたもので、科學の中でも著者專門の遺傳に關するものが多い。收錄されたもの全部で十九篇であるが、各々獨立した內容を有つもので前後關係はない。試みに比較的長文のものを揭げて見れば左の如きものである。

太平洋と動物學—生物界と人間—人類の起源—生物の生存鬪爭—春を蠶くもの—犬の種類と智慧—ダーウヰンと其の生涯—動物の性人間の性—胎敎と優生學等

原色千種昆蟲圖譜　平山修次郎著

實驗植物學提要

昭八、八　三省堂　四六判　圖版一〇四頁　附錄四二頁　三、〇〇

本書は東京井之頭公園平山博物館經營者である著者が、我國に最も普通な種類の昆虫一千種を著者所藏の標本中から選んで原色版としたもので、その一つ一つに和名、學名、科名、產地、採集月日並に食草等を記してある。卷末の附錄は、昆虫の分類、採集器、採集法、標本作成法、昆虫飼育法、標本保存法等に關する說明並に和名索引が附せられてある。

徳田省三著

昭八、九　三省堂　菊判　索引二一頁　三〇〇頁　三、三〇

植物學を、實驗を主として平易に說いたものである。取材も比較的卑近なものが選ばれ、之がバクテリヤ、變形菌、藻類、菌類、地衣類、蘚苔類、羊齒類、裸子植物、被子植物、顯花植物と云ふ風に植物分類學の順序で排列されてある。實驗に必要な器具、方法についての說明も相當懇切である。

地圖と地形

渡邊萬次郎著

昭八、九　新光社　菊判　三六頁　四、〇〇

內容は前後二篇に分たれ、前篇は地圖篇で、地圖の種類、地圖の表現、地形圖の製作に關して先づ說明し、次いで地形圖の見方利用法及之を利用して他の特殊地圖を作製する方法について敎へてゐる。後篇は地形篇で、山嶽、河川氷河、海岸、湖沼、平原、高原等の地形について地圖や寫眞を參照しながら說明を加へたものである。

進化學序講

小泉丹著

昭八、一二　岩波書店　菊判　四八四頁　索引八頁　三、五〇

生物進化に關する學問的な研究であるが、記述は平易である。內容は「進化の立證」「進化の過程」「進化の要因」の三篇に分たれてゐる。

生物學十講

中澤毅一著

昭八、九　厚生閣　四六判　三三六頁　二、三〇

生物學を、生物とは何ぞや—生命の基礎—機械說と生氣說—生物と環境—生殖及び發生—進化論—人類の進化—遺傳及び變異—人間社會と動物社會の十講に分つて講じたもので、記述は平易であるが、程度は少くとも中等學校の博物の課程を終へた人々に向くものである。

鳥類原色大圖說　第一卷

黑田長禮著

昭八、一一　修敎社書院　菊倍判　圖版四三枚　索引二六頁　八、〇〇

直接間接日本に關係ある鳥類千九十二種類に就き圖說したもので、豫定では三卷に分つて收めらるゝことになつてゐる。本書はその第一卷で燕雀目の鳥類三十一科について圖說したもので、收錄された鳥の數は三百七十一種である。体裁は片面に原色版の鳥を揭げ、片面には之に對する簡單な說明が附してある。尙卷末には鳥の和名英名學名三樣の索引が附してある。

電氣學講義

柏木好三郎著

昭八、一〇　裳華房　菊判　索引九頁　三、〇〇

著者は自序の中に「書名を講義としましたが、學校の講義を筆記したものではありません。學校の敎科書として簡略に書かれた本は何冊見ても(中略)獨學に適しないことはいふまでもなく、學生の豫習の爲にも便利ではありません」と云つて、本書がこの種のものと異ることを斷つてゐる。程度は專門學校程度で、磁氣學、靜電氣學、動電氣學、電氣振動、電波、氣體の傳導、陰極線、X線、放射能、陽極線、相對論、量子論等の項目が設けられてある。

日本植物圖譜

寺崎留吉著

昭八、七　春陽堂　菊判　索引六〇頁　二一〇〇頁　二五、〇〇

我邦に普通見らるゝ草木二千百種の寫生圖を中心に、之に簡單に說明を加へたものである。各草木の排列の順序は植物分類學の序列に依らず、開花又は果實を結ぶ季節の順とし花の主なるものは花を、實の主なるものは實を主として春夏秋冬に分つて排列してある。尙この排列の不備を補ふものとして、卷末には和名、學名、分科三樣の索引が附せられてある。

物質と言葉

寺田寅彦著

昭八、一〇　鐵塔書院　四六判　三七七頁　二、〇〇

この著者の科學的隨筆集としては「萬華鏡」につぐもので、岩波講座、帝大新聞、科學、理學界、鐵塔その他の新聞雜誌に揭載されたものを集めたもので、內容は大體「物質と人間」として十六篇、「言葉と人間」として六篇の二部分からなり、この外に新刊科學書三種の紹介及び伊太利の通俗科學雜誌の囑に應じて書かれたと云

ふ英文一種が收められてゐる。讀み物として稍々高級の部に屬する。

蟲の社會生活　松村松年著　昭八、七　東京堂　四六判三一七頁　一、八〇

本書は群居性を有する虫の中、最も高級な社會生活をなすものとして蜂と蟻とを拉し來つて、その社會生活の樣を觀察して記したもので、記述は平易で挿繪が豊かである。

力學史傳　福本正人著　昭八、一一　恒星社　四六判三六五頁　二、五〇

紀元前五世紀頃の人ツェノーンから初めて、最近世ではマックス・プランクやアインスタイン迄の五十七人の理論力學者について、極めて簡單ではあるがその略傳を記し、その理論力學上の功績を叙べたものである。その學說を解說するあたり、稍々高級な學術語や數式が使用され、全然豫備知識なしでは理解に難いと思はれる。

曆法及時法　平山清次著　昭八、一二　恒星社　四六判二〇八頁　一、八〇

曆法及時法に關する十一の論文と三つの附錄論文とが收められたもので、この種のものとしては類書が尠い。天文月報その他に既に掲載されたものもあるが、全然新規に執筆されたものもある。この著者は本書に於て學術用單位と常用單位との間に明瞭に使用上の區別を附し、その意味に於て所謂サマータイムに贊成し、二十四時通算法やメートル法には反對の意を表してゐるのは一應傾聽に價する。目次を掲げれば次の通りである。太陽曆—太陰曆—支那曆とギリシヤ曆—フランス共和曆—曆法改良案の分類及び評論—週について—日本に行はれたる時刻法—月と時—常用時の改良に就て—夏時法の現在—二十四時通算法

第十七　醫學

應急手當法　萩原良一・柿坂茂共著　昭八、八　東明堂　四六判一九四頁　一、五〇

應急手當の方法を誰にも理解出來るように書いたもので、內科的應急手當、外科的應急手當、並に應急手段としての假死者に對する手段、人工呼吸法、溺者救助法その他について方法を敎へてゐる。

病弱者の體質改造法　小田部莊三郎著　昭八、一〇　實業之日本社　四六判四一七頁　一、五〇

「軀幹よりも先づ內臟の强健」に重點を置いたこの著者の簡易强健法を中心に、病弱者の體質改造法を說くものである。すべてが手近な實行し易い方法に依つて居り、說明も明瞭である。因に著者は前英國ケント州ナショナル療養所長で醫學博士である。

本草學論攷　第一冊　白井光太郎著　昭八、一一　春陽堂　菊判五二二頁　四、五〇

當代本草學者として第一人者であつた故白井光太郎博士の本草學に關する論文並に小冊子をまとめたもので、全五冊の豫定である。この第一冊では、主として古來の本草學者の傳記及び本草學關係の考證的な研究が收められその數四十に及んでゐる。

第十八　工學

瓦斯電氣金屬鎔接法　益田森治著　昭八、七　丸善株式會社　菊判二二一頁　三、〇〇

專門書である。目次を掲ぐれば左の通りである。

鎔合法—瓦斯溶接法—瓦斯に依る金屬の切斷—電弧鎔接法—原子水素弧鎔接法—電氣衝擊鎔接法—鐵及鋼の鎔接部試驗法—各種非鐵金屬及合金の鎔接

高等建築學　第三卷　建築材料（田中正義）　常盤書房編
第一六卷　建築計畫　第四　商店・百貨店（高橋貞太郎、平林金吾）　同書房　菊判各約五五〇頁　各二、五〇
第三、一六、一九、二一、二五卷　昭八、七　一二　同書房　菊判約五〇頁　各二、五〇

第十七　醫學　第十八　工學

第一九卷　同　第七　遞信省の建築、張管雄）旅客驛（遠藤金之助）刑務所（藤田金一郎）
第二一卷　同　第九　美術館（小林政一）博物館、商品陳列館（下元連）
第二五卷　建築法規（菱田厚介、木田次郎）
都市計畫（笠原敏郎）
住宅經營（中村　寛）

實用田畑山林測量法

内田繁太郎　著

昭八、一二　西ヶ原刊行會　四六判一五二頁　索引八頁　二、〇〇

理論よりは實際を主とした田畑山林の測量法で、多少その方面の知識を有して居れば容易に理解の出來る平易な書き方である。簡單な用具に依る測量法から高級測量器具の使用法並に製圖法にも說き及んで居る。

大日本建築全史　同附圖

佐藤佐著

昭八、七　文獻堂　菊判三七二頁　索引三頁附圖八圖　二冊五、〇〇

上古より最近世迄の日本建築の歷史であるが、記述は上代に詳しく近世に個である。飛鳥時代、白鳳時代、天平時代弘仁時代、藤原時代迄で全卷の約半を占め、以下錄倉、室町、桃山、江戸、現代となつてゐる。記述の方法はその時代、々々の建築方面の大勢について先づ述べ、次いで現存の代表的古建築物について一つ一つ解說をしたものである。附圖の方は主として平面圖及び側面圖である。

誰にも役立つ

國民の電氣　天、地の卷

寶來勇四郎　著

昭八、九　寶文館　菊判天地三八二頁四〇〇頁　各一、五〇

極めて平易な電氣讀本で、理論にわたる所は殆どなく、たま〳〵あつても其は常識で理解の出來る程度の理論である。主として電氣の應用方面に關する一通りの常識を敎ふるもので、電燈、電車、電熱、漏電、醫療方面の電化、家庭、農村、工業、鐵道、その他の電化、產業方面の電化等に關して平易に說明したものである。

床の間の構成　裝飾篇

北尾春道　著

昭八、八　洪洋社　菊判二八〇頁　三、五〇

日本住宅に於ける床の間に關し主として裝飾方面から論じたものである。從つて床の間の構成美に關する論、床の間の裝飾物としての一般美術の鑑賞に關する論、床の間の置物に關する論、床の間の裝飾法等が內容の主たるもので、床の間の架構的意匠や建築の實際方面を收めたものとしては、別個に工作篇として上梓されるとのことである。

日本建築史圖錄　飛鳥、奈良、平安

天沼俊一　著

昭八、一二　星野書店　四六倍判三三二頁　三八五圖　七、〇〇

建築史的に現存の古建築物の寫眞を配し、之に數行づゝの說明を附したものである。寫眞は全景は勿論、細部に亘る撮影もなされ、又單に建築物のみではなく、之と密接な關係を有する工藝品も收載されてある。豫定は全三冊で第二冊は鎌倉、室町、第三冊は桃山江戸時代とのことである。

日本探鑛法

岩崎重三　著

昭八、九　內田老鶴圃　菊判二八一頁　索引一一頁　三、五〇

專門書である。目次を揭ぐれば左の通りである。
鑛石發見の有望—鑛石と探鑛者—地質—金鑛床—金の性質—金の探鑛方法—金以外の探鑛法—物理探鑛法—試錐法—鑛法位置決定—試料採集—評價

第十九　美術、諸藝

アマチユア人物寫眞入門

眞繼不二夫　著

昭八、一二　自彊館書店　四六判二五四頁　一、五〇

人物寫眞撮影に關する技術上の入門書で、素人向きに平易に說明したものである。カメラ、レンズ、フイルタ1その他撮影の材料に關することも多少はあるが、主として撮影技術一般で、採光の具合、室內の場合、戶外の場台、夜間の撮影、或は幼兒、小兒、男女、老人、群像、自畫像と云つた風に撮影對象別の撮影法について詳細に說明されてある。

印畫修整の實際

寺岡德二著　昭八、九　玄黄社　四六判四四一頁　二、六〇

寫眞技術としては稍々高級の部に屬する印畫修整の實際について語つたもので、內容は準備篇と實技篇とに大別せられ準備篇は更に概要篇と用材篇とに分けられてある。準備篇は云ふ迄もなく豫備的知識を與ふる所で、實際上の處理は實技篇で述べられてある。實技篇は更に化學的處理と手工的處理の二つに分けて說明されてある。

印刷文明史　第四、五卷

島屋政一著　昭八、九—一一　同刊行會　四六倍判各約七〇〇頁各一〇、〇〇

第四卷は幕末銅版術の我國渡來から始めて、明治初年歐式活版印刷の輸入並に之が各方面に對す影響を記したもので、要するに維新前後の印刷文明事情である。第五卷は第四卷に次いで今日に至る迄の近代印刷文明に就いて述べられたもので、これで本書は完結したが、全卷に對する索引一冊が非賣品として昭和九年三月出版されたことを附記しておく。

音樂講座　第六、一三、一六、一九、二二編

學藝社編　昭八、八—一二　同社　菊判各約二〇〇頁　各一、五〇

第六編　管絃樂法　桂近乎著
（第六編は上下二册になつてゐる）
第一三編　音樂美學　辻莊一等著
第一六編　宗教音樂　堀內敬三著
第一九編　世界民族音樂　鹽入亀輔等著
第二二編　音樂辭典　第一用語篇

科學寫眞の理論と實際

エー・フォン・ブンゲラー著　大島幹義譯　昭八、一一　小西六本店　菊判一七八頁　索引七頁　二、〇〇

本書はミュンヘン工業大學教授 E.v.Angerer 著 "Wissenschaftliche Photographie, eine Einführung in Theorie und Praxis" の全譯で、寫眞乾板、寫眞器械、ネガチブ等に關して科學的な說明を加へ、寫眞に對する科學的な性能を知ることに依つて撮影の實際に益せしめようとするものである。類書は少い。

實用圖案資料大成　第五—八卷

杉浦非水　渡邊素舟共著　昭八、七—一〇　アトリエ社　菊倍判各約百圖　各二、〇〇

第五卷　植物資料圖案集　下
第六卷　人物資料圖案集　上
第七卷　同　中
第八卷　同　下

實例指導　趣味の寫眞術初步

松山思水著　昭八、八　金星堂　四六判二一六頁　一、九〇

アマチュアの初心者に寫眞術一般を平易に敎ふるものである。故に內容は寫眞に關するあらゆる方面にわたつて居り、謂はゞ簡單な寫眞概論とも云ふべきものである。專門語をあまり使はぬこと、高級品を材料として說明せぬこと、アマチュア寫眞家である著者の經驗を土臺としてゐること等がこの著者のこの著述に於て誇つてゐる所である。

書道と畫道

津田青楓著　昭八、一二　小山書店　四六判二二四頁　二、〇〇

畫家にして又書の道に堪能なこの著者の書論である。書名は書道と畫道であるが、畫道に關することは極めて尠い。本書一貫して著者の奉ずる所は、唐の柳公權の言葉「用筆は心に在り、心正しければ即ち書も亦正し」である。從つて所謂書家の字を嫌ひ個性を尊んでゐる。要するに著者は、本書で自己の藝術觀を、代表的東洋藝術としての書に據つて述べたものと見られる。

新南畫の描き方

小室翠雲著　昭八、七　資文社　四六判二一四頁　一、八〇

標題紙には冠稱に「畫集をかねた」とある。それだけに約二十枚の寫眞版と多數の挿畫が挿入されてゐる。南畫の描法を定石通り四君子から始め、葉、樹、石、山の四大描法、小徑、河川、瀑、橋、舟、人家、人物、鳥獸の描法を經て、之等を集合せしめた山水の作畫法に及んでゐる。記述はすべて入門向きに平易である。

蔬果と藝術

金井紫雲著

本目錄前號に、同じ著者の「魚介と藝術」が掲げられてゐるが、本書の構成も大體之に相似たもので、我々の日常生活に關係の多い蔬菜と果實を捉へ來つて、それ等を題材とした古今の繪畫、文藝等について簡單に解說したものである。　昭八、一二　芸艸堂　四六判三一九頁　三、〇〇

圖說日本美術史　田岡謙三・大澤實共著　昭八、九　岩波書店　四六倍判解說九七頁圖版二九七頁　四、五〇

本書は繪畫、建築、彫刻、工藝品等日本美術の代表的作品の寫眞を美術史の年代順に並べたものである。この種の圖集には部分的專門的なものは相當に立派なものがあるが、本書で著者の試みんとする所は日本美術史の概要を知らしむる爲のものである。從つて餘り專門的な細部の寫眞は收められてゐない。卷頭に約百頁を費して各時代の美術一般が解說せられてある。時代區分は上代、飛鳥、奈良、弘仁、藤原、鎌倉、足利、桃山、德川時代となつてゐる。

清庵美陶片　清水隨齋筆集　昭八、九　大河內正敏著　鐵塔書院　四六判三〇九頁　二、四〇

主として陶磁器に關係した趣味的なものが多いが、中には狩獵に關するもの、釣に關するもの、食道樂に關するもの、又いくつかの產業問題に關する論文もある。既に新聞雜誌に掲載されたものが多く、中には「柿右衛門と色鍋島」の如く單行本として著名なものも收められてある。

日本藝術樣式の研究　皷常良著　昭八、一一　章華社　菊判七九九頁索引二〇頁　八、五〇

著者は昭和四年暮、ライプチッヒから獨文を以て「日本藝術論」なる一書を刊行したが、本書はこれとその思想に於て同一のものである。即ち著者は本書で東西文化を對比し、東西藝術の樣式上の差異の闡明に力め、日本藝術樣式の根本的特性として「日本藝術樣式の無框性（無限界性）」を認め、之を本著述の核心として、內樣を序論、自然愛の藝術、宗教藝術、生活表現の藝術の四部に分つて說いてゐる。專門的研究であるが、記述や表現は平易である。

●人形讀本

日本人形研究會編

日本人形研究會主催「日本人形講習會」の講演記錄を集めたもので、下田次郎博士の「教育上より見たる人形」笹川種郎博士の「日本人形史」、西澤笛畝氏の「人形美術」、有坂與太郎氏の「鄉土と人形」等の人形教育論乃至は文獻的人形研究を始め、工作講座として各方面の專門技術家に依る人形製作の實際についての說明などあり、人形のあらゆる方面に關するものが收められてゐる。　昭八、一二　雄山閣　四六判三八九頁　二、五〇

密着と引伸　佐和九郎著　昭八、一〇　アルス　四六判四四八頁　二、五〇

普通印畫の燒付と云へば大部分密着法か引伸法のことであることは云ふ迄もない。故に本書は大體に於て今日の印畫法全般に亘つて解說するものと云つてよい。內容は相當微に入り細にわたつて說明せられ、寫眞技術としては可也專門的な段階に及んでゐるが、主旨はアマチュア寫眞家の實技を目標としてゐるので叙述は平易である。

洋畫鑑賞十二講　黑田重太郎著　昭八、一〇　立命館出版部　四六判二九九頁　二、二〇

洋畫鑑賞の基礎となる可き事柄を十二講に分つて說明したもので、十二講と云つても項目は「洋畫の鑑賞」「形式と技法」「技巧」「表現」「樣式」「鑑賞の實際」「洋畫と現代日本人の生活」の七つである。稍々專門的に亘る說明もあるが、概して一般鑑賞家の爲に書かれてあるので理解に易い。

柿の蔕　坪內逍遙著　昭八、七　中央公論社　菊判五三五頁　二、五〇

劇壇の耆宿である著者が、折にふれて書かれた思ひ出話を集めたものである。演劇談が最も多いが「二葉亭四迷の事」「明治二十三年ごろの文壇」「饗庭篁村の事」の題目のトに書かれてゐる所は、明治文壇の裏面史とも見る可きものである。演劇談としては「活歷劇桃山譚の今昔」「清正役者としての吉右衛門」「梨園外からの劇の指導者」「自作上演の新演出」「沙翁劇の新演出」等々の諸文があり、この外に野口英世や八代大將に關すること

などもある。

指遣ひ人形劇の製作と演出

内山憲堂著　昭八、八　日本童話協會出版部　四六判一七八頁　二、〇〇

子供の藝術教育の一つとしての指遣ひ人形劇について述べたもので、著者の説明では指遣ひ人形は人形劇の中で最も簡單なものであるそうである。最初に總説として東洋西洋の人形劇全般に亘る解説をなし、次にその中でも特に指遣ひ人形についてその製作法、演出法を述べたもので、卷末には「舌切雀」「貧乏神となまけもの」「孫悟空」の三つの脚本が附錄として載錄されてゐる。

近畿能樂記

野々村戒三著　昭八、九　大岡山書店　四六判二七六頁　二、〇〇

序文に依ると本書は前著「能樂古今記」に漏れたるもの、及びその後の發表にかゝる十六篇を收錄したとある。故に能樂古今記の續篇とも見る可きである。目次を掲ぐれば左の如し。

謡曲作者に關する疑義—觀世信光と其の子孫—喜多流祖と金剛流—觀世の遺跡—貴志喜太夫一件—淺野榮足と其の著書—「素謡世々の蹟」と其の著者—京都片山家系考—京都金剛家の人々—茂山忠三郎良豊—明治初年に於ける京阪能樂師の動靜—京都の狂言—能樂文献に關する考證斷片—中京能樂記—伊勢猿樂の隆替—脇方の發生と其の傳統—優者年表

積雪期登山（準備と技術）

藤田信道著　昭八、一一　朋文堂　四六判三一三頁　一、五〇

著者は云ふ迄もなく斯道の權威で、多年の經驗を基礎として冬山の登山についての一應の過程と注意とを説明したものである。内容は左の七章から成つてゐる。

積雪期登山の準備—資格と訓練—スキー合宿—山岳スキー術—雪上技術と雪質—氷上技術—積雪期山岳の危險—（附錄）乾燥雪崩—スキー登山界の回顧

世界映畫藝術發達史（定本）

映畫評論社編　昭八、七　同社　菊判六〇七頁　二、八〇

近々半世紀の間に異狀な發達の跡を示した世界の映畫界の歷史で、日本、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシヤ、北歐南歐の諸篇に分つて發達史が記されてある。日本の部は相當に古く明治二十九年（一八九六年）からで、アメリカが一八九五年から、ドイツは一九〇八年から、フランスが一九〇三年、ロシヤが一八九六年から取扱はれてゐる。卷末には二百頁に近い世界各國の映畫作品目錄が附せられてある。

箒のあと　上、下

高橋義雄（箒庵）著　昭八、七—一一　秋豊園　四六判上五一六頁　下五六五頁　上二、五〇　下三、〇〇

著者は自序にもある如く文久元年生れで本年七十三歳、人も知る當代一流の風流人である。本書は都新聞に昭和七年六月以降掲載されたものを一本としたもので、内容は著者七十年間の見聞錄である。文久元年より初めて毎十年を一期として昭和七年迄が七期に分たれて、一面著者の自序傳であると共に、一面幕末、明治、大正、昭和の社會變遷史で、著者が實業界に育つた人だけに政界財界の名士に多くの交友を有し、明治末年財界を退いてからは學者俳優風流人に交友の範圍を擴げ、夫等の人々との交遊が同時にその時代の世相を物語つてゐる。上卷は明治四十四年迄下卷は以後昭和七年迄である。

山スキーの技術

長田進著　昭八、一二　隆章閣　菊判二二三頁　一、五〇

本書は冬山登高を目的とするスキー術の入門書で、專ら技術の説明に終始して餘談は少く、謂はゞ山スキーの教科書である。勿論著者は一流のスキーヤーであるだけに、記述はいづれも自己の經驗を基礎としてゐる。

第二十　兵事

鐵鋼學上より見たる日本刀

菊田多利男著　昭八、一二　日進社　菊判三五一頁　附錄一三四頁　五、〇〇

日本刀を主として著者專門の鐵鋼學上より觀察したもので、取扱ひ方は專門的ではあるが、説く所は極めて平易で、愛劍家に對して日本刀に關する科學的な知識を與ふるものである。内容は先づ日本刀の歷史より筆を起し、之に伴ふ鐵鋼の種類、製鐵製鋼の方法を記し、次いで日本刀につき、その種類、名稱、鍛造に關して説明

し、更に詳細に燒とか匂とか沸、移り等について述べ、出來上つた刀の切味などについても說明されてゐる。その說明の方法は固より何れも科學的である。附錄一三四頁は「鐵銅の物理的性質」となつてゐる。

現代空中戰に於ける都市攻防 **爆擊對防空** 山田新吾著 昭八、七 厚生閣 菊判二七一頁 一、八〇

近代戰に於ける飛行機に依る都市の爆擊並にその防空について一應の說明を試みたもので、全卷十二章の中、一章より五章迄は歐洲大戰の例など參照しつゝ爆擊機の威力を示し、近代戰に於ける航空機の機能について語り、六章より十二章迄は之に對する都市民の防空方法について語つてゐる。

第二十一 産業、家政

犬

（研究とその飼ひ方） 中根榮等著 昭八、一〇 春陽堂 菊判三九七頁 二、五〇

中根氏外八氏の執筆になるもので、內容は左の通りである。

「總論」（中根榮）—「テリヤ類」（伊東義節）—「獵犬の選擇とその仕立方」（竹本恭太郎）—「現代的エーヤデール・テリヤ」（今田莊一）—「ドーベルマン・ピンシエル種」（太宰一郎）—「コリー」（大浦兼次）—「シエパード」（伊藤藤一）—「使役犬の訓練」森內陸廣）—「犬の保健衛生」（宮川文雄）

栗の栽培法

田中諭一郎著 昭八、八 明文堂 四六判二九〇頁 附錄一六頁 二、〇〇

栗樹としての栗の栽培法で、栗樹の沿革、種類、性態等から筆を起し、品種、繁殖、栽培一般、採收、貯藏から荷造、販賣に至る迄を記してある。栽培一般としては風土、栽植、整枝、剪定、肥料等詳細に亘つて研究されてある。附錄としては索引、文獻、肥料の成分表、藥劑並器具の定價表その他が收められてある。

趣味の盆栽仕立方

吉松巖著 昭八、八 明文堂 四六判二五八頁 一、八〇

こゝでは普通ごくありふれた樹種の苗木又は種子を愛培して盆栽に仕立てる迄の過程が示されてゐる。專門的な技術に對しては多數の挿繪を用ひて圖示され、卷末の約五十頁は盆栽樹木について解說がなされてある。

日本農業年鑑

（昭和九年） 富民協會編 昭八、一一 同會 四六判六六三頁 一、〇〇

この年鑑は昭和七年版から發行せられ、今年は第三回目であるが、本目錄に收錄するのは今回が最初である。內容は記事、統計、要覽、農業法規の四つに分たれ、記事篇は主として昭和七年冬から八年秋迄の農界の諸問題を各專門家に依つて解說せられたものであり、要覽篇には各種一覽表、昭和八年農業日誌、關係圖書雜誌目錄等が收められてある。

農業土地政策論

澤村康著 昭八、一〇 養賢堂 菊判四三七頁 三、八〇

著者は九州帝國大學教授で、農業政策の權威であり、本書亦純然たる專門的研究書である。昭和七年發行の「農業政策上卷」（本目錄昭和七年後期收載）の後篇となるべきものを、都合上發行所を改めて獨立の著作として發行した旨「はしがき」に斷つてある。內容は左の四章に分たれてゐる。

小作制度改革政策—土地分配政策—自作農維持政策—農業社會化政策

實驗 **メロン栽培法** 山岸守著 昭八、一二 西ヶ原刊行會 四六判三〇〇頁 二、三〇

メロン栽培の實際について說明したもので、露地栽培に關するものもあるが主として溫室栽培である。著者自身の經驗による幾種類かの栽培日誌も載せられてある。

家庭副業 **養蜂の實際** 北原利男著 昭八、七 厚生閣 四六判二五三頁 一、八〇

內容は總說、蜜蜂の生活、扱ひ方、特殊の扱ひ方、生產品等の章が設けられ、蜜蜂の性能を知らしめて之が飼養法に及ぶと云ふ書き方である。附錄として卷末に本邦養蜂植物名が開花期の順に揭げられてある。

研究と製作の實際指導

金屬工藝

松崎福三郎著　昭八、一二　構成社　菊判二三八頁　二、八〇

金屬工藝一般に對しての入門的指導書である。內容は機械、材料、加工、加飾の四部に分たれ、機械、材料の二部は、使用機械、道具並に金屬材料一般に對する豫備的解說で、加工、加飾の二部が實際の技術上の指導である。化學的又物理學的の說明もあるが何れも簡にしてわかり易い。

最新化學工業大系第三、七、八、一一卷

新光社編　同社　菊判各約五五〇頁　各三、五〇

第三卷　氣體工業（內田俊一）　空中窒素固定工業（內田俊一）
人造肥料工業（庄司務）　電池及蓄電池（亀山直人）
第七卷　電氣化學工業（亀山直人）
石油、天然ガス及頁岩油工業（田中芳雄）　アスファルト工業（市川良正）
液體燃料の合成（永井雄三郎）　木材乾溜工業（小林久平）
酸性白土及活性炭（小林久平）
第八卷　油脂工業（田中芳雄）　硬化油工業（上野誠一）　石鹼、脂肪酸、グリセリン及び總稿工業（三雲次郎）
第一一卷　天然及び人造纖維工業（厚木勝基）　セルロイド及可塑物工業（厚木勝基）　パルプ及び紙（丸澤常哉）

日本漆工の研究

澤口悟一著　昭八、九　丸善株式會社　菊判七一八頁　索引一七頁　七、〇〇

漆工をあらゆる方面から研究したもので、固より專門的研究である。著者は工業試驗所技師で、目次を掲記すれば左の十篇である。

漆工史（支那羅の漆工についても語られてゐる）—漆—材料及要具—素地—糊漆—蒔繪—蒔繪以外の裝飾法—乾漆—彫漆

滿洲の資源と化學工業

工業化學界滿洲支部編　昭八、一一　丸善株式會社　菊判五九五頁　三、八〇

內容は十二の部分に分たれ、第一は「資源」として滿洲に於ける農、畜、林、水產について數字的に解說せられ、第二以下第九迄に油脂、食品及醸造、畜產、纖維、製鹽、窯業、金屬、燃料等の諸種の工業についての現勢を記述し、第一〇は其他の化學工業、第一一は雜工業、第一二は新興工業として大豆工業、輕金屬工業、遺達工業、製鋼工業、窒素工業等について語られてゐる。執筆者は何れも彼地に於て之等諸工業に實際從事してゐる人々である。

木材の乾燥

泉岩太著　昭八、一二　西ヶ原刊行會　菊判二〇九頁　附錄二二頁　二、八〇

木材の乾燥がその使用上に重大な影響を及ぼすことに鑑みてなされた研究で、純然たる專門書である。目次を掲げれば左の通りである。

木材の組織と性質—木材の水分と乾燥—天然乾燥—人工乾燥—熱及乾燥裝置—濕氣及蒸發—熱氣の循環と木材の積方—乾燥作業

廣告學概論

奥平稔著　昭八、一〇　栗田書店　菊判四一二頁　二、五〇

書名の示す通り廣告の理論づけであつて個々の廣告の實際上の作成法を說くものではない。目次を掲ぐれば次の如くである。

廣告の意義—廣告の歷史的考察—廣告媒體の研究—廣告の心理學的研究—廣告作成の研究—廣告戰の計畫論—廣告の倫理學的考察—廣告の經濟學的考察—廣告の將來

佛蘭西商業文解說

尾上貞五郎著　昭八、七　白水社　四六判二八六頁　二、五〇

外國語商業文としては從來主として英語が用ひられ、この方面の參考書は可也多いが、佛蘭西語による商業文の參考書は未だ之を見なかつた。この意味で本書は洵に珍らしい。項目の設け方などは大體英語商業文に關する參考書と大差なきものゝ樣である。

精說

營養と食物

高木眞一著

食品化學に關して比較的平易に書いたものである。內容は八篇に分たれ、第一、二篇に於て食物並にその營養について概論し、第三篇は「應用」として調理一般を述べ、第四、五、六篇に亘つて重要食品、調味料、飲料について食品化學的の說明がなされてゐる。第七篇は「食糧の貯藏」、第八篇は「食物と衛生」となり餘論の形である。記述はすべて平易である。

昭八、一〇　文光社　菊判九五七頁　索引三四頁　七、〇〇

現代手藝全書　大妻コタカ著　昭八、九　研文書院　菊判六一五頁　三、〇〇

內容は「編物編」、「刺繍編」、「摘畫編」、「リボンアート編」、「クレープ造花編」、「フラワーリリーアート編」、「縫細工編」、「曝細工編」、「人形細工編」、「贈答用折紙と水引結編」の十編より成り、これ等諸種の手藝につきその技術を簡潔に解說したもので、說明には多くの挿繪が用ひられてある。

名產食品製造法　日本衞生化學會共編　昭八、七　立社　菊判四五〇頁　二、八〇

日本衞生化學會の會誌に時々揭載せられた各地の名產食品の製造法を寬めて一卷としたものである。勿論收錄せられた名物は由緖特徵のあるもののみで、約百種である。地方的天產物を加工したもの、或は普通の材料に名物としての特殊の調味加工したもの等種々である。

第二十二　少年書類

小說

愛犬バツク物語　宮下正美著　昭八、一二　文敎書院　一、五〇

麗はしき母　佐藤紅綠著　昭八、一〇　大日本雄辯會講談社　八〇

小太郎と小百合　楠山正雄著　昭八、一一　大日本雄辯會講談社　一、二〇

少女百面相　佐々木邦著　昭八、一〇　大日本雄辯會講談社　八〇

西洋武勇傳　小島政二郎著　昭八、九　采文閣　一、二〇

雪原の少年　小川未明著　昭八、八　四條書店　二、五〇

源義經と成吉思汗（愛國少年文學）　加藤武雄著　昭八、九　新潮社　六〇

童話

しろちびの水兵　大城のぼる著　昭八、七　中村書店　七五

童謡漫畫　童話の鑵詰　岡田菊二郎著　昭八、九　岡田文祥堂　、六〇

のらくろ伍長　田河水泡著　昭八、一二　大日本雄辯會講談社　一、〇〇

歴史

小年國史物語（平安時代後期、鎌倉時代）　前田晃著　昭八、九　早稲田大學出版部　二、五〇

傳記

少年軍神　橘中佐　湯淺城二著　昭八、一〇　大同館　二、〇〇

少年元冦と北條時宗　栗山周一著　昭八、九　大同館　二、〇〇

少年佐倉宗吾のお話　中村時藏著　昭八、九　大同館　二、〇〇

理科

一日二十分間宛三百六十五日子供に聞かせる科學の話　原田三夫著　昭八、一一　誠光堂　一、八〇

郷土研究少年讀本　昆蟲物語　小山海太郎著　昭八、一〇　信濃郷土誌刊行會　一、〇〇

ファブルえばなし　昆虫の生活　前田晃著　昭八、八　金の星社　、八〇

工學

科學日本の誇り（少年發明科學叢書第二編）　發明界の驚異　寺島柾史著　昭八、一一　文敎書院　一、五〇

日本現代の發明家物語　寺島柾史著　昭八、八　文敎書院　一、五〇

幼年書

さゞなみお伽繪噺　ちんぜいはちらう　木村小舟編　昭八、一二　吉田書店　一、〇〇

さゞなみお伽繪噺　はちまんたらう（あさひな、げんざんみ　うしわか、べんけい）　木村小舟編　昭八、一二　吉田書店　一、〇〇

ヂャツクト豆ノ木（キンランビクチユアブツク）　谷崎伸編　昭八、七　金蘭社　、八〇

サザナミオ伽繪噺　カチカチヤマ（ハナサカヂヾイ　キンタラウ）　木村小舟編　昭八、一二　吉田書店　一、〇〇

モモタラウ（サザナミオ伽繪噺）	木村小舟編	昭八、一二　吉田書店	一、〇〇
シタキリスズメ（サザナミオ伽繪噺）（ウラシマタラウ、ブンブクチヤガマ）	木村小舟編	昭八、一二　吉田書店	一、〇〇

昭和九年十月二十七日印刷
昭和九年十月三十日發行

著作者　文部省

印刷者　東京市芝區今入町七番地　庭野民一

印刷所　東京市芝區今入町七番地　厚明舍

317
58

317
58

終